ボーイスカウト指導資料

スカウティングの基本的解説

ボーイスカウト日本聯盟

發刊のことば

初めての系統的な指導資料として茲に“Scoutingの基本的解說”を指導者諸君に贈る。

Scoutingは斷えず前進してゐる。それは少年達が時代と共に且つ毎日毎日進歩して行くのと全く同じである。指導の方法が此の進歩に伴はなければそれは既に價値ある指導ではない。日本に於ける此の運動が永い歷史を持ち乍ら何年もの空白の時を經て再發足をした今日、特に此の言葉——Scoutingは斷えず前進してゐる——を此の書に添えたい。

此の資料を首めとして指導者のための理論的な手引書の發行が實技的な指導書と共に計畫されてゐる。又班長用や少年用のものは別の形式で將來刊行される筈である。

本書の記述は主として理事岡本禮一氏が之に當り、理事中野忠八氏を始め中央事務局の專從指導者たちが之を補つたものである。

昭和24年3月15日

ボーイスカウト日本聯盟

まえがき

「そなえよ常に」の標語おもち、三つの「ちかい」お心の源泉——生活信條——として、十二ヶ條の「おきて」お日常の物さし——生活規範——とするボーイス・カウト（以下B・Sと記す）の、その訓育上の三大制度、（三大方法）即ち、班制、進級、制度、技能章制度が完全に施行され、且つ、完全に遂行されることによつてのみボーイスカウト訓練（以下スカウテイングと記す）の偉大にして崇高な目的が達成される。

そしてこの三つの大制度わ、個々に獨立別存するものでなく、或わ單に相關連していると云うものでもなく、實に三位一體——打つて一丸となつているもので、絶對不可分のものである。

班制わその基盤であり、これに訓練プログラムとしての進級及技能章の二制度お併せて一つの完全な教育方法としたものである。

故に班制わもとより重要なものであるが、單にそれだけでわグループワークの優れたもの丶一つに過ぎないが、これに訓練のプログラムとして他の二制度お併有するから特異の存在となり、眞の精華お發揮する次第であつて、若し班制だけお獨立重視して他の二つ或わそのうちの一つでも、これお輕視してために跛行狀態となつたなら、切角の班制もその有つ效力お發揚することわ困難であつて、スカウテイングの眞價お顯わすことわ出來ない。

因つて玆に三大制度の實際的考察お試み、その圓滑な實施及び運用に便ならしめ度いと念願して本書お草し發刊する次第であつて、これが指導に當る隊長の指針、手引となれば倖せである。

第一章　班　　制

班制わスカウテイングの根幹・班制の重要性とローランドフイリツプ氏の言葉・兒童心理學がその基盤・兒群と班の人員數・餓鬼大將の善用・指導能力お基とする指導方法・指導兒の育成・班制の本義と適否の實例・隊指導者會・上級班長・班長・次長・班名・班動物・班の標章・班旗・班別章・班呼・班記號・班精神・班標語・班善行・班競技・スカウトのゲームに就て・班行脚・班會議・班記錄と班報告・班野營・班のクラブ室・班意識の强調と班制教育の目的・班の傳統・班長班・班訪問

班制わスカウテイングの基盤であつて、この制度お輕視したり、或わその運用が不適當であるとB・S教育運動わ成り立たない。

B・S組織に於ける「班」わ少年お團體組織する形式上、又わ、事務的便宜上の單なる單位體でなく、實に有機的な存在 ——一つの自活生命お有つものであつて、この班制の意義お確實に把握し、それに徹したものこそ最もよきB・S指導者である。

班制のかゝる重要性に就て、B・S教育運動の發祥地であるイギリスの最もよきスカウトマスターで、スカウテイングの創始者ベーデン・パウエル卿から深く信頼されていたローランドフイリツプ氏わ

「班制わスカウテイングお導く一つの方法でわなく、たつた一つ（オンリーワン）の方法である」

と云つた。然もこの言葉わ　その重要さおまつたくよく云い表わした名言だと世界中のB・S運動者から認められている。

それわ、この「班」が、兒童心理學に基礎お置いて、深い考察と同情の下に勘案創始されたもので、このことわ、スカウテイングお研究すれば、誰しもよく認識し、納得する處である。

子供わ群れお作る。それわ彼等の本能（集團本能—徒黨本能）であつて、この群れお兒童心理學者わ「兒群」と名付けている。そしてこの群れの人員

數にわ自ら限度がある。人爲的に例えば、權力者が嚴しい命令お出して十何人若しくわ數十人の群れお作らしても、それわ一時的な形而上の群れであつて、彼等の本能に基く欲求からの群れでわない。彼等の本能から出來上つた群れとわ、その欲求によつて同氣相寄る徒黨的仲間のグループのことであつて、これわ第三者が人爲的に作り或わ作らせたグループの到底及ばない强い團結お有つている。この群れの人員數わ、子供の成長過程に於ける年齡的變動があるが、大體年少期（五、六歲から十二、三歲位でわ五、六人であり、少年期（十二、三歲から十七、八歲位）でわ七、八人である、青年期（十七、八歲以上）になると反對に減つて三、四人になる。これお單的に立證するものわ、學校に於て一學級五六十名の生徒學生お一つの單位體として扱つた場合、先生が號令で動かすときわそれが一つの群れとして行動するが、一度び休憩となると今までの一つの群れわ、數箇又わ十數箇の小さな群れに分裂してしもう。しかもその小さな群れわ第三者に指圖されたものでもなければ、要請されたものでもなく、彼等が本能の欲求に基いて自由に、思い々々にかたまつて出來たものであり、その一群れのグループ人員わ年齡による差こそあるが大體前述の通りであることお何ん人も認めるであろう。

因てB・S運動に於てわ、この兒童の心理お善用して

ウルフ・カブ（英國） カブ・スカウト（米國）（年少期のもの—滿九歲から滿十三歲）一班五、六人

ボーイ・スカウト（少年期—滿十二歲から滿十八歲）一班七、八人

ローバー・スカウト（英國）（青年期—滿十七歲以上）一班四人以內

（尙米國にわローバー・スカウトわないがシニア・スカウトと云うものがある。併しこれわローバースとわ大分趣きが變る）

と規定し、班お作らせるのである。

次に彼等の本能に基く群れの鞏固さわ只その人員數が自然に限定されるだけでなく、その群れの中にわ社會性の善惡わ別として彼等の信賴する中心人物、卽ち、餓鬼大將 —指導兒（リーデングボーイ）と云うものがあり、その統率の如何によ

つてその群れが鞏固にもなり弱體にもなる。そしてその指導の如何によつてこの群れが善い方へも進むし、悪い方にも進む。悪い方え向たいものが世間で手を焼く不良少年群である。

人間一生のうち餓鬼大將の下に在る時代の被感化力の大きなことわ、その人の將來の半分わそこで左右されると見られている。

B・S 運動わスカウテイングの單位體に、前述の通りにして「班」お作るから、この餓鬼大將制おも巧に採り入れて、その班の指導兒（リーデングボーイ）— 餓鬼大將である「班長」お設ける。この班長にわその班の班員が信頼する班員お、班員の選擧によつて選任する。つまり彼等の餓鬼大將お、彼等の仲間の中から彼等の手によつて選ぶのである。

隊長わ、この班長およく指導して班員の指導わ班長にやらせる。（これわ、仲間同志の感化力の應用、仲間同志の切磋琢磨、相互敎育、相互扶助、友愛、自治等々の目的 — ねらいお兒童心理に卽して行おうとするものである）

そしてよき監督者でありよき協力者となる。

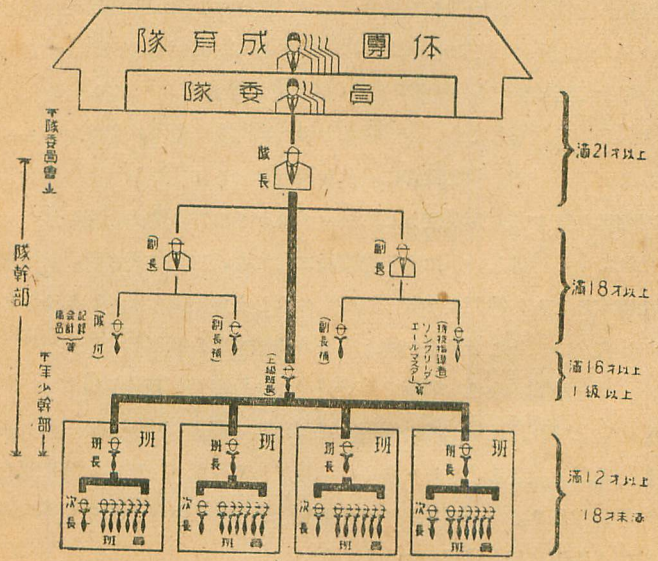
隊長わ常に能力と同情ある指導によつて隊員お指導する責任と義務お有つている。云い換えればこれわよき指導者としての權利でもある。そしてその指導能力の面に於てわ、敎育學上敎育者わその被指導者三十名乃至三十五名、多きも四十名お超してわ、被指導者の個性に卽した敎育わ出來ないとされていることに基いて、個性敎育に重きお置くB・Sに於てわ八人の班員お有つ班四箇卽ち三十二人お限度として百パーセントに其の能力お發揮するよう仕組まれている。併しいかに全能な隊長にしても、三十二人の全員お一率に直接指導することわ時間及空間（場所）のさし支えと云うものがあるから容易にわ出來ない。そこで隊長わ能う限りの時間空間お利用して班長だけお敎育する。僅な時間、小さな場所でも班長だけなら容易に訓練が出來る。隊全員お集めるとすれば比較的廣い場所も必要だし、集合に時間もかゝり、訓練にも長い時間お要する。それに多くの人數だとそう度々一定の時間に集ることにわ無理がある。さればと云つて全員集合お求めず隊長が總當り式に隊員個々に個人指導お行う時間わおそらくない。

隊長が指導するスカウテイングわ隊長自身先づ體得し、次々と調査も研究も實修もしなければならないし、隊委員會、隊幹部會えも出なければならぬ。そして一方に於てわ隊長自身の家庭的、社會的生活があるから常時專心指導にかゝつてわ居られないのが普通である。

それに餓鬼大將システムわ飽くまで仲間わ仲間の信頼するものゝ責任に於て、その手で指導される處に效果があるのだから、班長によつてその班員お指導させることわ一層の重要な意義お有つているし、そこに班制教育の妙味がある。

隊長が班長お通して指導する方法に二つの行き方がある。それわ插畫のような組織のある隊であれば隊長わ上級班長一人お全班員の指導兒として訓練する。その設けのない隊でわ各班長お隊長が訓練する。上級班長のある場合わ上級班長が隊長から指導されたことお各班長に指導する。

標準的隊組織



「班制教育の主要目的わ出來るだけ多くの少年に彼等の性格お發揚せしむるために眞の責任お課することにある。若し隊長が班長に實際の權利お與え多大の期待おかけ、仕事に自由お與えれば彼わ少年の性格發揚と云う點でわ多くの學校教育が從來行つて來たよりも更に大なる成果お齎らすことになるのである」と、ベーデンパウエル卿わかどり火のつどいの話のその四の班制教育——パトロールシステム——で述べている。よく翫味すべき言葉である。

右の何れの場合でも隊長が指導兒——先達——模範（モデル）スカウト——お育成し、その育成されたものが仲間即ち班員お隊長の協力と監督の下に指導し育成するのである。この方法わ從來の我國の青少年指導方法とわ大差がある。我國の從來のそれわ殆ど隊長である指導者が全隊員お集合させて一齊に然も一率にこれお指導しようとした。これでわ個性教育も自發教育も出來るものでわない。趣く處命令と號令で詰込教育となつてしもう、これとB・Sの行き方わ全く趣きお異にしている。この點わ特に重大なことであるから、これもローランドフイリツプ氏の記述したものがあり、しかもその記述わ「班」の本質お實によく物語つているから此處にその譯文お轉載する。

ローランドフイリツプ氏の記述から

「三十人の少年お一ケ所に集め、好きなようにさせると忽ちその三十人わもつと小さなグループになつて、何かごそごそと始める。これわ子供の集團本能であり、何と云つてもこればかりわどうすることも出來ない。

歸校の際、この餓鬼大將お持つグループわ色々な遊びおやるが、たまたま餓鬼大將が失敗すると直ちに別に儀式ばつた事おせずに餓鬼大將が代る。この餓鬼大將おもつグループの行動わ、何時も一心同體になつて行われる。

これおB・Sが取入れそのまゝ班として行動するのであるが、これの餓鬼大將即ち班長・責任ある役目おもつ者お頭に總ての行動お共にするのである。併し今度わ前に云つたような餓鬼大將でわなくなり、理解ある大人の指導によりスカウテイングお有力なものにし不變なものにするのである。

この少年のリーダーおもつ班が一、二、三、四あつて隊となるのであ

る。この班がスカウテイングの單位體であり、隊組織わ皆お同等にし監督者お與え、そして又忠實な者おつくり奉仕する機會お與える。云い換えれば隊わ便宜上班に分けたのでわないのである。逆に一つ二つなり、或わ三つ、四つの班が集まつて隊になるのである。

スカウテイングの目的わよき公民おつくるための人格の涵養である。しかしこれと同時によき公民おつくるばかりでなく、よきリーダー(先導者)おつくることお强調し度い。キルパトヅクわ『少年わ練習し經驗しなければそれお覺えることが出來ない』と云つた。それと同樣に人おリードする樣な少年おつくるにわ、それお練習する機會お與えてやらねばならぬ。そしてこの班制がそのいろいろな練習の機會お與えるならば、自分等の班おこわすか或わ成功させるかの責任お少年に與えることにもなるから、皆にその機會お與えてやるのである。

班わ樂しい家庭でなければならぬ。勿論色々にスカウテイング上又わ隊の枠があるが、隊長が各班お時計の如く皆同じように動かすのわいけない、各家庭が異るように各班も異るのが普通であり、それお無理になおすのわ木のまだまだ伸る枝お折るのと同じことである。

班制のもう一つの特色わ大人の指導者の仕事お半減すると同時にもつと有効なものにすることである。

隊長わ隊お自分の手足の如く好きなように動かすのでわなく、隊長わ少年の先導者が隊お指導出來るように訓練するのである。と、理解出來るようになつたその時から隊長の仕事わ半減し、他にもつと有効になり會費の心配わなくなり結束、急救法の指導も半減する。そして研究する時間が多くなりスカウト一人々々お常に見、理解することが出來、連絡お密にすることになる。又この班制わ隊お永續させることになる。隊長がいなくても集會わ行われるし、立派に指導が出來るのである。

班制の主なる目的わベーデンパウエル卿が云つたように「少年達に責任お移し隊長お樂にするために行うのでわなく、たゞこれが人格涵養のために一番よい方法である」からこそやるのである。

隊が正しく班制おやつているかどうかおたしかめるにわ、その隊の運用振りお見ればよく判る。玆に數箇の例お擧げてこれお見ると

A隊の場合　隊長わ生物學者であり隊員の多くが技能章お持つて居りそれお誇りとしている。彼わ隊員に專門的知識のみをどんどん頭につめ込

む。そして『自分で經驗して覺える』ことがおろそかにされる。ハイキングもキヤムピングも皆學校の教室である。班長わたゞ名譽な名稱にしかすぎず、立案權も全責任も隊長のみに制限される。そしてその隊員わ隊長がいない時わ何等の練習も受けない子供達である。

B隊の場合　隊長わ元軍人であつた。彼わ非常に旗おもつて軍隊行進や教練おやりたがり集會中わ針が落ちても聽き取る位の靜さである。ハイキングわ行進であり、キヤムピングわ天幕の上げ下ろしばかり練習し移動ばかりする。訓練も時計の如く手旗信號、急救法ばかりやり、班わ八人いなければその班わ減點される。これわ八人いなければ班と見なさないからである。そしてA隊と同樣に全責任、立案權、決定權わ隊長一人のものであり、班長わ隊長の教戒の手である。全く軍隊と同じである。

C隊の場合　技能章も持つている者も多く居るし、隊長わ集會その他の場合もあまり表え出ない。そして隊の發展わすばらしくよい。隊長わたゞ隊員のよき監督者であり、協力者である。集會等わ全員の好きな樣に班長以上のものがプランしてやる。隊長の參加しないハイキングやキヤムピング等わ澤山行われ、どんどん進級して行く、各班員わ人に賴らず自分のことわ自分でやり責任觀の强い班である。

以上三隊のうちどれが一番よいか？　古い經驗者の曰く「班制が上手に行われているかどうかおためすのわ安樂椅子に座ることだ」と、先づ安樂椅子お集會所の隅に置き集會の初めから終りまでそれにぢつと心配なくニコニコして座つていることが出來ればよし、出來なければまだ班制が徹底していない隊である。

一、どんなことがあつても班が單位であり、班が行動すべきである。
二、少年指導者お養成せよ（リーディングボー！）

班制が徹底して初めて隊である。

上記の記述わ班制の本質と、それが如何に重要なものであるか、そしてその運營についてまつたくよく云ひ表わしている。

次に同一班內の班員の年齡であるが、これわ餘り大差のあるのわ望ましくないがさりとて同年輩のものばかりわ却つて取らない。つまりブラザーフツトお發揮するにわ兄分弟分があつて兄が弟を見ると云う立前お採る事が、班が家庭的にもなるし、彼等お互の自己完成に都合がよいからである。

【班の組織】 班わ班長と次長の各一名お持つ。次長わ班長の助手である。そして班の全員に常設的番號お付けて置くか、或わ班の仕事お全員で分擔するからその分擔した仕事の係名稱おつける。

全員に番號お附ける場合わ、班長わ一番スカウトであり、次長わ二番スカウトである。以下八人の班なら八番スカウトまで各自に番號お附けるのである。從つて班の仕事おするときわ何番スカウトわ何に、何番スカウトわ何と受持おきめる。班内の分擔した仕事で係名稱おつけるときわ記錄係、會計係、野營係、用品管理係など云ふのである。

このどちらの場合もスカウトの擔當業務わなるべく同一人に長くそれおさせないで例えば三ケ月なり六ケ月で他の仕事に代るようにすることが望ましい。そうすると誰でもが一度わその仕事おするからやがてわ誰れそれがいないからその仕事わ判らないとか、出來ないとか云うことがなくなる。スカウト自身にしても上手下手こそあれ一應わ何んでもやれるし、彼自身自分の隱れた才能お發見することにもなる。

【隊指導者會】 これわ隊幹部會というてもよい（隊委員會とわ別である）隊行事の企劃や實行の中核となるので、隊にとつてわ心臟に相當するものである。

これわ後に述べる上級班長と班長で組織される年少幹部班と、隊長とで組織されたもので、各班の班長、次長、上級班長、隊長、副長が此の會議に出席するが、會議わ上級班長お議長とし、出席の班長が各一箇の票決權お有し、次長わ票決數にわ加わらない。要するに各班の意見わ其班長が表示するわけである。班長が缺席する場合その次長に代理させたときわ次長が票決權お持つ。

隊編成の日が淺くて上級班長が議長として充分な働きの出來ない間わ、隊長が議長となつて議事進行の方法お指導するが、成る丈け早期に上級班長で會議お纏める樣にさせることが望ましい。

隊指導者會でわ上級班長が議長お充分勤めるようになれば隊長わ發言する

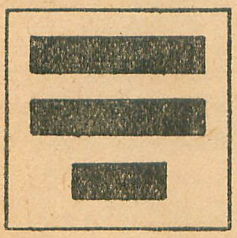
ことがあつても、票決に加わらず、決議事項のよき助言者となればよい。（隊長わ最後の決裁權お有するが、何事でも所謂最後の斷お下すと云うゆき方でなく、常によき助言お與えて最後の決裁お與えた場合と同樣な結果に導いてゆくべきである）副長わ各班の次長に票決權がないのと同樣に隊長の補佐わするが票決にわ加わらない。

隊指導者會で決定した事柄わ　各班長が責任お以て自班お指導し、その實施の任に當るのである。

これ等隊指導者の構成員たる上級班長，班長、次長等の任務性格に就いてわ以下に順次述べたい。尙この外に隊附即ち、記錄係、會計係，備品係等の列席わ差閊えない。

【上級班長】　これわ隊における指導上最も重要な地位の一つであつて、年少幹部班即ち班長班の班長であり先任班長である。從つてその役目柄上級班長にわしつかりした性格のもので、スカウテイングに熱意お持ち、リーダーとしての能力の有る一級スカウトお當てる。

上級班章



上級班長の役目わ班長に協力し、班長の仕事お援助する。だから班お如何に運營したら效果的であるか、班わどうしたらよりよくなるかお十分理解していなければならぬ。この點から云えば班長として優秀な成績お有つものが一番良い上級班長だと云える。

上級班長お置くにわ，隊幹部會議（年少幹部お含む）に於て選出され，其の任命わ隊長の推薦により隊委員會が行う。

その任務わ隊のいろいろのプログラムお企畫したり，隊幹部會議（年少幹部お含む）の議長となること等で隊のプログラムの良否の責任者でもある。この場合、上級班長わ少年であるから、隊員である少年全部の要求に添うようなプログラムお作ることお信賴が出來ると期待されよう。

それから隊集會の責任者も上級班長であるから、集會がいつも活潑であるように運營する義務も負うている。そして隊のキヤムプやハイキング等の隊

活動の責任者でもある。

その役目と責任から云つて、上級班長わ隊内のどの班の様子も大體知つていなければならぬし、常に各班長お勵まして班の集會やハイキング、キヤンピング等班に關することわ班長の力となつてやるものである。

上級班長わ上級班長章お右腕に附ける。

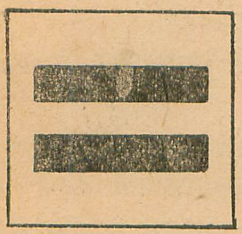
上級班長適任者のないのに形式的、或わ機械的、事務上便宜からこれお設けてわならぬ。

隊長わよくその適任者お養成してその役に就かせ、上手に之お活用すれば、責任感お發揮してその任務お遂行すること驚く程のものがあることお銘記され度い。

次に訓練も隊長が全隊員お同時に指導することわ時間的及び空間的に困難であり、成果も擧らぬが、上級班長一人に接することわ時間的及び空間的制約が隨分緩和されるから大した困難わない。因て上級班長お指導して班長の指導わ上級班長にさせ、上級班長に指導された班長わ各自々班の班員お指導する。少年わ少年の仲間の指導によつて伸びてゆく。これわ餓鬼大將制の自然性が大きな効果お擧げるのである。

班員お指導する餓鬼大將（班長）わ他お指導する爲に反復自習してその指導お全きものにしようとする努力、責任感によつて班長自身も育つのである。この場合隊長わ全くよき協力者でありよき監督者であらねばならぬ。

班　長　章



【班長】班の責任者であると共にリーダーであり、隊の年少幹部であり、餓鬼大將である。この班長の人と成りの如何によつて、その班がよくもなり悪くもなる。隊長わしつかり班長お摑んでいて、これお善導し、訓練し援助することによつてその班員お完全に指導することが出來るのである。

班長の任務わ、隊の決定事項や班會議の決定事項お遂行する班の先導者で班の世話もし、隊幹部會議に年少幹部として出席する。そしてその班の先導者として最もよきモデルスカウト — 模範 — となり身お以て班員お導く先達である。そのために班長わ直接隊長と接觸する

機會お多く持ち、その指導されたことお反復練習してこれお班員に施す。その間に於て彼自身が練磨されて所謂人として大きく育成されてゆくのである。

班長設置の方法わ、隊結成の當初又わ新班編成の當初に於ける班の假編成時代わ、隊長が賢くて且つ強く、班内の年長者であつて從來の少年仲間の人望もあり、指導能力もあると云ふ少年お適任者と目して任命するが、班の本編成に當つては、班全員の選擧によるお建前とする。班長の重要性が少年達に判ると彼等わその責任の下に信賴する者お選ぶ、選ばれて班長となつたものが、何等かの理由で進級せずに他の班員が進級した場合——例えば全員（班長も）が初級スカウトであつたがそのうち一人でも（それ以上ならば勿論）班長より先に二級スカウトに進級した場合——その地位わ變更される。班長が班員おその責任の下に善導してゆく、つまり班長わ先達なのだから、こんなことは殆どない、異例中の異例である。班長自身が二級、或は一級に進級する能力がなくてわ、その班の班員の進級わ先づ圖れない。その面から見れば、全班員の進級が停滯している班わ班長が不適當なものであることお示しているのである。

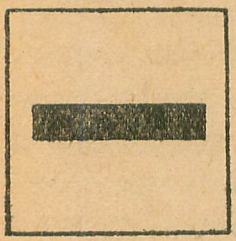
技能章についてわ、更らに高階級のスカウト（アメリカでわイーグルスカウト、イギリスでわキングスカウト、日本でも嚮てそれに齊しいものが設げられよう——戰前の日本スカウトにわ隼健兒と云うものがあつた）にわその進級條件に特定の技能章何個お有すること と云う資格條件が附されているが、一級以下にわそれわない、因て技能章わその制度の本質から云つて班長が有つていないものでも、班員が有つ場合わ多々あるから班長資格に進級と同樣な考え方おする要わない。

班長わその左腕に班長章お附し、整列又わ班の野外行動のときわ團杖の頭部に班旗お附けてこれお持ち、常設的班員番號によつて呼ぶときわ一番スカウトである。

【次長】 これわ班長の助手であつて、班長に事故がある場合その代理おする。これも設置方法わその班員全員の選擧による。併し班員一致の同意お得

た場合わ班長から指名してもよい。

次長章



次長わその職責柄班長のよき協力者であるが班長お差し置いて班長的振舞わ許されない。

班員の常設番號お有つ班でわ次長わ二番スカウトでその左腕に次長章お附ける。

【班名】 班にわどの班にも班名お附ける。それわ機械的な第一班、第二班と云うのでなく動植物の名が用いられる。(天然現象や天文、色彩、偉人先覺者の名前など用いる國もある) 殊にB・Sでわ動物の名が多く用いられる。(ガールスカウトでわ植物の名お用いる方が多い)

この班名わ單に事務上の便宜に附したものでわない。これが教育上いろいろとそれの持つ活動性、發展性お利用して有意義なものにする。然もそうすることが彼等の心理によく合致するのである。

動物お班名に用いた班、假りに「馬」お用いて馬班と名乘る班だと、馬お「班動物」として「班の標章」にわ馬お用いる。——各國のB・Sわ大體馬の首以上お影繪で描いたものお用い、時にわ簡單に走り書きに描ける馬の顔お用いる——この班の標章お旗に描いて「班旗」お作るし、その班の班員わ上衣の右腕に「班別章」として、班旗と同樣な圖柄の班の標章お附ける。

班のもの同志が呼び合う時に用いる「班呼」にわその班動物の鳴聲とか、動作によつて特徵のある音お出すものわその音お使う。馬班の場合なら、馬の鳴き聲、「ヒイーン」と云うものもあろうし、馬が元氣一杯張りきつて地面お掻い込む時の音お用いるものもあろう。

班のもの同志が連絡、通信する場合「班記號」お用いるが、その班記號に班名お記す時わ、文字で班名お書くよりも班の標章お描いて署名とする。

班動物とした動物お班員全體でよく研究し、その研究によつて得たその動物の最も良い特徵お「班標語」に用いるとか、「班精神」につながりおもたせる。その他班名に用いた動物即ち班動物お基として、その動物に因な活動性

發展性お有意義に活用する。班の歌も、班の劇もそこから湧き出ることにもなり、「班意識」お昂める。そしてこのことが矢張り彼等の心理に適して教育効果が増大することになる。

次に班旗や班別章、班記號等に用いる班の標識わ班動物の影繪お描く。これわその例お班呼の例とともに次に圖示する。

牡牛
咆哮——「ウムモオウ」

海豹
呼聲——「ハアーク」

馬
嘶—「ヒイーイーイー」

梟
笛—「クツトークツトークー」

虎
喉鳴「ガラアオ」

獅子
叫聲——「ユウーウー」

羚羊
高く投げる咆哮—「ミイアウーオツク」

鳩
叫聲—「クウーウ・ウー」

狐
吠聲——「ハツハー」

熊
唸聲—「ブール」

牡鹿
咆哮——「バアアウ」

鶴
啼聲——「コール」

豹
片側に舌をよせて調子取る「キーウツク」

アナグマ
歯の間から高調子で鳴鼬鼠と同じ「チーテウーテウーテウ」

啄木
笑—嘲叫——「ヒイアルフルアーフルアルフア」

牡羊
鳴—「バア、アア」

野鳩
呼聲—「プツク、フーロー」

鷲
非常な細高叫——「クリー」

河馬
叱聲——「ブルツシユ」

ガラガラ蛇
小罐に礫を入れたる様なガラガラ

野猪
ブウブウ聲—「ブルツフーブルツフ」

眼鏡蛇
叱聲——「プツスト」

郭公
呼聲——「クツークー」

川獺
啼聲—「ホオ、オイーオイツク」

海狸
平手拍音—拍手してなす

【班動物】 班名に用いた動物がその班の班動物となるもので、その動物に關してその班の全員で研究する。その動物わ現世紀に實在するか、或わ前世紀のものか（例えばマンモース象の如く）その所在分布狀態 形態、色彩、

鳴くか、鳴かぬか、鳴くとすればどんな鳴聲か、どんな所に棲むか、どんな巢か、どんなものお食べているか、どんな益がありどんな害があるか、どんな習性おもつているかなどあらゆる角度から詳しく調査研究する。兎とか鳥禽類などわ飼育も出來るし、それ等のものわ自然觀察にも好適のものである。

班動物に選んだ動物の文獻や傳說お調べたり、寫眞、繪畫、模型、玩具或わその動物の革とか骨、齒、角又わ羽毛などの加工品等班員の手で作ることも、既製品お蒐集することも出來る。コレクションわ集めるにも保存するにも注意と努力と工夫とお要するが、彼等わ興味お以てそれおする。斯うすることによつて彼等の班意識わ自ら强調されて常に班氣分が横溢して來る。

殊に班動物の習性中その美點わ班の標語に用いられる。例えば熊班なら熊わ剛健な感じを表わしているから『剛健』おモツトーとしてこの班わ何事にも剛健な氣風おみなぎらせる。と云う風になる。斯うするにわ十分にその班動物の習性お知り、その特徵お認めてしなければならぬ。

キヤムプフアイヤーの出し物の劇や歌、或わページエントなどわ、各班それぞれ班動物に因んだものお出すことが多い。これわ彼等の創作や演出の意欲お起させ又わ熾んにさせるよい機緣となるものである。

班動物として用いられるものお擧げると大體次のようになる。併しそれわ次に擧げたもの以外であつてもよいことわ勿論である。

【獸類】 獅子、虎、豹、黑豹、熊、ひぐま、あなぐま、笹熊、白熊、象、まんもうす、犀、獏、猪、狐、狸、羊、となかい、羚羊、兎、やまあらし、鹿、猿、牛、野牛、水牛、馬、縞馬、驢馬、犬、猫、もるもつと、針鼠、りす、むさゝび、狼、らつこ、あざらし、鰐、かわうそ、ぬうとりや、きりん、駱駝、あんごら、ごんどら。

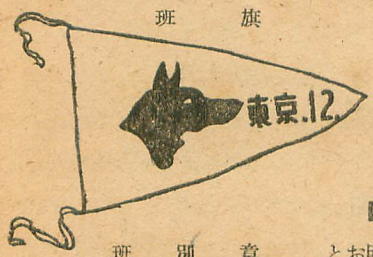
【鳥類】 鷹、隼、鷲、孔雀、黑鳥、白鳥、鳶、目白、ひがら、しじゆうから、こがら、もず、ほうじろ、やまがら、からす、うぐいす、ひよどりかけす、駒鳥、よしきり、千鳥、かなりや、つばめ、きじ、しぎ、うづら、つぐみ、ふくろう、ほとゝぎす、はと、きつゝき、せきれい、鶴、白鷺、おしどり、たげり、おうむ、あひる、るり、尾長鷄、文鳥、くい

な、すゞめ、海つばめ、とらつぐみ、郭公、椋鳥、鴨、鵜、じゆういち、ぺんぎん鳥、こんどる。

【班の標章】 班旗に描かれ、班別章に用いられ、班記號の署名となる班の標章わ、班のクラブルームや、キヤムプの入口に、その班の表示として、この班の標章が掲げられる。天幕やシート、其の他木工具などに、その所有者お明らかにする場合わ、この標章お附して置く、班員各自わ、自班の班の標章がすらすらとしかも巧みに描くよう不斷自習する。

班が班の標章お有つことわ、班呼や班標語お有つことゝ同じく班意識お強め班氣分お旺盛にするものである。

【班旗】 班旗の形と大きさわその班の班會議で適宜にきめてよい。これお杖(長さ一米四〇お基準として、持つスカウト個々の身長に應じて長短お決める)の頭につけて班長がこれお持つのである。(左掲のカットわ班旗の一例である。文字わ地域お示し數字わ隊番號お示す、即ち東京第十二隊狼班であることが班旗によつて判る)



班　旗

【班別章】 各班わその班員であることお明示するために班員各自のシヤツ又わ服の右腕に班旗の圖柄と同じ圖案のものお附ける。

班別章の大きさわ五センチ丸でこれお附ける位置わ右腕で袖付けの縫目から二吋下である。

班別章

外國にわ、この班別章お圖のようなものお用いずに、その動物の毛色なり羽根の色なりと同じ色のテープお左肩につけるものもある。

【班呼】 これわ各隊又わ各班のスカウトが多數群集しているとき、班長が自班のスカウトお呼び集めるときとか、暗夜中班員同志お互に呼び合うとき、或わゲームなどでスカウトが隱れているときなど用いる一つの合圖で班の合言葉である。

昔から團體に合言葉お作つたように合言葉おきめておくと便利であり然も同志結合——團結お强める上にもよいものである。

その班呼わ班動物の鳴聲か、なかにわ鳴聲お出さないで動作によつて生じる音お用いる。例えばガラガラ蛇と云ふのがあるが、これお班名とした班わガラガラと云う音お班呼に用いるし、或わ兎などわその鳴聲よりもピョンピョンと飛ぶ動作かもピョンピョンと云うのお班呼とするものもあろう。鳩わその本當の鳴聲よりも日本人にわ幼年時代の愛唱からポッポポッポと云ふ方が感じが出ると云ふものもあろう。

併し例えば、犬班が犬わキヤアンキヤアンと鳴くときもあるからとて、班呼おキヤアンキヤアンとするなどわ好ましいことでわない。それわ犬がキヤアンキヤアンと鳴くのわ弱音であるからで、スカウトわ決して弱音わ吐かない。このほか動物の性質上嫌われるものがある。或外國でわ猿わ不正實だと云つて不正實な人間お猿のようだと云うことから猿班とつけるものがないとのことである。我國でわ蝙蝠わ二心あるものとて鳥の仲間からも獸の仲間からも除外されたと云う童話から嫌われる動物の一つだし、豺狼と云つて東洋的に豺や狼が嫌われているが、猿わむしろ親しまれ愛好されている。これわ何れもその國その國の國民感情によるものであるから、此處でどれわいけないとわ云えない、このことわスカウト自身が判斷してくれるからそれに任すべきである。

【注意】 班呼わ口で唱えなくても、笛やその他の器物お用いて音お出してもよい。耳で聽く合圖——聽音信號であるから音によつてそれお表示し得るものなら何んでもよい。
班員わ自班以外の班呼お唱えることわ許されない。

班呼に用いる動物の鳴聲や動作音わ勿論巧みな程よいが、銃獵期間に於て禁獵場所以外の山野、草原等に隱れて巧みな動物の鳴聲や動作音お用いて銃獵家に射撃されぬよう注意お要する。雉子笛（獵師が雉子お誘ひ寄せるとき使う笛）お鳴しているのお他の銃獵家が本當の雉子と思込んでその聲お目當に射撃して獵師お撃てしまつたと云う例や、草原で草がゆれ動いて白いものがちらちらしたのお、兎と信じて發彈して草刈中の老婆お撃つたと云う例もあるから、スカウトわそんな間違おされぬよう注意お要する。

【班記號】 前の班呼わ口で云う合言葉、耳で聽く合圖であるのに、これわ書くもので眼で見る合圖である。例えばハイキングで先に行つた班なり班員なりが後から來る自班の班員なり他班の者に我々わどちらへ行つたとか、もう歸つたと云うことなどお連絡するときにこの班記號おする。前に述べたようにこれわ班旗や班別章に用いた班の標章お描き、それから連絡すべき事項お追跡サイン或わ豫め決めてあるその班員だけの暗號符號で示すのである。

班記號

左圖わ虎班の二番スカウトが後から來るスカウトにこの道わ行くべき道ではないと示したものである。

班だけの合言葉、班記號暗號お持つことわ、仲間以外にわ知られ度くないと云う彼等の秘密本能の善用であつて、この本能が仲間意識、團結心お固めるものでもあり、彼等の心理的欲求に合つたものである。

【班精神】 何事おするにつけても精神のないものわ所謂魂のこもつていないものとして世人わ排斥する。それわ眞理である。B・S運動に於てわ班が有機體であるだけに、この班精神が班の行動の素であり、最大の重要性お有つていることわ今更云わずもがなのことである。

班精神とわ班員各自がその班の重要な一部分であると云うことお自覺して、その班お完全なものとするために、各自の任務お行う團體精神のことであつて、一致團結とか、一心協力とか、共同一致とか云うことわこの精神に根ざすのである。

スカウトが班に於て班の決めごと例えば班呼とか班記號お覺えることも、

班標語お體することも實に班意識お強め、班精神お高めるためである。

班にわ何れもそれぞれの規律がある。（この規律わ他人が決めて強られたものでわない、班員自らがお互に協議して決めた約束ごとである。）この規律お破るものわ班精神の缺けているものであつてそれでわ眞のスカウトでわない。

スカウトわスカウト精神お磨くために、班が他の班と班競技お行うが、班精神の缺けた者の居る班わ何回やつてもよい成績わ擧げ得ない。若し左樣な班が班ハイク（班行脚）に出かけたときわ不愉快な結果お招來する。我國で古くから然も廣く一般に知られている西遊記 ―三藏法師と孫悟空、猪八戒、沙悟淨の四人が遠い道お永い年月お費して、數えきれない苦勞お重ねて天竺に經本お取りに行く物語の、その道中、八戒や沙悟淨の短氣と浮薄な心持ちから起る幾多の失敗や艱難に讀む者の心おいらだたせるが、恰度それと同じ樣な氣持お懷かせる。班野營に於ても班會議に於てもことごとく同樣な苦い經驗が與えられる。

國家わ國民のために協同組合法お施行して大いにその活用と發展お祈念しているが、この協同組合の有つ組合精神わ班精神の實踐に徹した者なら正しく且つ容易に實踐することが出來る。

【班標語】 班精神お昂揚し、班の向上お目ざし、その成果お上げるために各班わそれぞれ班の標語お持つ、「そなえよ常に」わ內外スカウト全般の共通標語であるが、班わ班としての標語お有つのである。

その標語にわ班動物の特徵による意義付けから選ばれる。これわ何れも人間としての美德とするもので、彼等がその標語お實踐することが最もよき人格涵養となるのである。

犬わ飼主の恩お知ると云う、況して人間として恩お知ることわ大切なことだ。神（佛）の恩、國家の恩、社會の恩、人の恩、科學の恩、天地自然の恩等々人類の生活わこれ總てものの恩惠によらざるわない。然るに無智か、無關心か、恩お知らず、恩お感ぜず、甚しきわ恩お無視する忘恩の徒さえある。そこで例えば犬お班動物として犬班と名乘る班が「恩お知る」とか「報

恩」とか標語お決める。そして班員が先づ自分の屬する班の恩お知る。恩お知れば利己主義にわなれないから我儘おしないし、恩に報ゆる心も起きる。恩に報ゆるにわそれが出來るように自分の力（精神的にも技能的にも物質的にも）お養成する。そこにわ責任感も努力心も、自己犧牲も、勇氣も、克己心も、忍耐も節儉も、愛情も、慈善も、其の他人間としてのあらゆる美德がその要素に自然と織込まれる。

同じ犬班でも、犬わ番犬として信賴される。信賴されるのわ忠實だからだ。因つて「忠實」お標語とすると云う班もあろうし、「信賴」お標語とする班もあろう、そしてその標語のように班に對して忠實な班員、信賴される班員になるよう精進する。それが發展して社會に忠實な人間、社會から信賴される人間となり得るのである。

人間にさえ善し惡しがある。まして獸類鳥類のことだから、役にも立つが害もする。殊に猛獸猛禽に至つてわスカウトの標語にするような美しい特徵わない樣に考えられるが、彼等わ鳥獸、魚貝類、混虫、植物、器物が口おきくお伽噺の所謂架空的想像時代から事實談、史談、冒險物語お好む時代及びそれお經て再び想像時代に入つた頃で、あこがれお持ち、且つ觀念的にわ善し惡しお辨別するし、ものゝ意義づけや發展性お考え美化お好む時代だから、標語お有つことの意義お知れば、ものゝ善き面——長所お採り惡しき面——短所お捨てゝ有意義なもの、美しきものとする才能がある。班動物の現實的在り方ばかり考えずに傳說なり物語などに現われて來る美點お巧に捉えて、その動物のよき特徵お强調して、惡しき面お被ひ包んでしもう、かゝる心理お捉えるものである。犬わよく吠える、咬付くとて常にがやがや騷ぎ、矢鱈に喰つてかゝるような少年の群れになろうとわ、彼等わ決して希つていない。ウエル・カムわ觀光サービス標語となるが、「吠える咬む」わ犬班の標語でないことお彼等わよく知つている。

【班善行】 B・Sわ日々の善行——最少一日に一つのよいこと、即ち一日一善お自ら義務としている。

來る日も來る日も最少一つの善いことおする。どんなとき、どんな場所でも、それが出來るようにそれぞれの行爲お訓練體得して「そなえよ常に」の

標語お仇にせぬ。だから善行お心がけていれば、どんな日でも、最少の一つが出來ないことわない。スカウトの「ちかい」に一、いつも他の人々お援けますとあり、同く「おきて」の第三にスカウトわ人の力になる。同く第六にスカウトわ親切である。同く第十にスカウトわ勇敢である。とあるのわその本文又わ傍書お讀めばスカウトわいかに在るべきかが判り——所謂スカウトの義務の遂行わ善行によつて明白に物語られる。「他お幸福にすることが自らの幸福である」と認識して「ちかい」、「おきて」の遵奉實踐にいそしむ彼等の行爲に、彼等の日々の善行が積まれてゆく。

この善行お班で行うのが班善行である。これわ班の集合に或わ班のハイクや野營のときに他の人の爲に、又わ國家、社會に奉仕おする。

【社會奉仕に對する考え方】 その社會奉仕がスカウトの自らお磨き、人となるための訓練、試練の有意義な方圖——スカウト修行の一部面であること——教育上の價値およく認識し、單なる社會奉仕おするだけの社會事業團體とならぬよう注意すべきである。

社會のため公衆のために善い事おしてやつたと、恩にきせる様なことなしに、寧ろ自らのために善い事おさせて貰つたと思うのである。「情わ人のためならず」と云うことも、聽てそれが自分に報いて來ると云う考え方でなしに、その行爲が他お倖にしたのでわなく自らの——スカウトの義務お果し得て幸福だと感じるのである。即ち「施すものわ幸いなり」で、その行爲お他えの善行と思わず自らの義務——スカウトの義務お果し得て倖だと思う處に自身幸福お感じ、感謝すべき事柄だと知るのであつて、斯くしてこそ奉仕の眞の意義があるのである。

【班競技】 スカウテイングわそれ自體がゲームだ、と、その創始者ベーデンパウエル卿わ述べている。彼等えの總ての訓育がゲーム化されていて、ゲームおたのしみつゝ訓練されてゆく。その爲に班と班とがさかんに遊技、競技お行う。これが班競技である。

班競技わ一般の競技のように勝敗の結果とか、新記錄お作ることお目的とするものでなく、ゲームによつてスカウテイングお行い、スカウト精神お磨

くのが目的である。つまり勝つとか新記錄とかわ次善のもので、その道程に教育價値お置いている。だからその趣旨およく體して行わぬと、切角の班競技も効果お擧げ得なくなるばかりか反つて目的お害う。

スカウトのゲームわ選手お作るのでなく、全員が齊しく磨かれることお建前とする。勝敗お目的とするゲームなら、そのゲームに優れたものだけお選手に出すが、勝敗に重きお置かずお互がたのしみつつスカウテイングお行うため、假りに勝敗と云う形式お借りて來たものであるから、巧拙又わ得手不得手わあろう共、各班がその班全員參加して自然に未熟者お上達させるように行う。ゲームが敵對觀念お懷いて陰慘な眞劍に陷らぬよう、常に友誼お重じ愉快に眞摯に行うようにする。

班競技わ班員の共同責任だから、班員中に未熟者があれば、他の班員わ協力してその班員お熟練者に仕上げてゆく、それによつてパトロールワーク——グループワーク——チームワークが築かれて來る。

班競技わ班の全員參加が建前だが、ときにわ各班の上達者ばかりで代表競技——模範競技おする場合もある。併しこれわ飽くまで模範競技であつて、我國で行われているような選手制度下の選手競技とわ違う。勝敗お度外視してその技に上達すれば、あれ程になれる。と云うことお示す程度のものである。この模範競技わ獨り、技だけの問題でなく、態度、動作も重要視される。眞のスポーツマンシップわスカウトゲームによつて養われる。

スカウトゲームわ友誼ある競技である。從つて現下の我國での競技觀念が相手お敵視して何か敵對行動でもあるかのように、軍事的合戰的用語お用いて表現するようなものでわ決してない。「破る」とか「倒す」とか「復讐成る」とか「雪辱」とか「鬨(かちどき)お擧げる」などと云う壯烈又わ悲壯な言葉わ敵愾心お起させる好戰的なもので、スカウトゲームにわ不適當な用語である。スカウトゲームでわ敗者が勝者に祝辭お送つてこれおたゝえる。それも勝つたからでわない。その技が上達している事おたゝえるのが本心である。

班競技わ團體競技であつてチームワークとフエアプレイお强調する。ス

カウトのゲームわ、相手お借りて各員が技そのものと自己の能力とお競爭しているもので、自他の技お競爭するのが目的でわない。その人その人の能力から、巧にその技おこなすにわ、それぞれの天賦の性能と努力の差がある。自身の努力が困難な技そのものをどこまで巧にこなしたか、そのバロメーターお相手お借りて試し知る。そしてこれわ有形な技の結果だけでなく無形な精神面まで、そのゲームお通じて測定される。例えば班精神がどこまで深まつているか、犧牲的精神、克己心、公明さなどよくうかゞわれる。從つて技も上達し精神も磨かれる。

最近我國でも熾んになりつゝあるレクリエーション運動が、人間の本能中五つの欲求即ち

1. 新しい經驗や刺戟お欲する
2. 安全お圖つて新しいことに用心する
3. 團體活動に認められるような仲間としての親しみお求める
4. 人から認めて貰うことお願う
5. 人の爲に盡し、又人お助け度いと希う

お擧げてその正しき伸長お圖つているが、此の同じ念願わ班競技にある。否大きく云きばスカウテイングこそまことに偉大なるレクリエーションなのである。

團體ゲームにわ分業的にそのチーム構成の人々が、その適性によつてそれぞれの持ち役——部署お決めるが、これわ社會一般な勝敗お目的とした競技だからであるが、スカウトゲームの本質からわ、そうさせるよりも、班員が班の仕事——事務お期間をきめて廻り持ちで分擔して、どの仕事にも經驗お得させることと同樣に、どの部署にも就き、どの持ち役にも當るように代えてゆくことが望ましい。斯くして體得したゲームわ、或場合他班の者と混成してチームお作るとき、誰れでも立ち所にメンバーとなれるし、もつと大きな利益わ、彼等の常識がそれだけ深かまり且つ精神も肉體も偏らないで成長すると云う點にある。

【ゲームに就て】

1. 根本理念

教育の使命とゲームの使命わ同一だ。

教育おゲーム化し、ゲームお教育化す

ゲームわ彼等の生活であり、必要事であり、役目であり、指導者である。

ゲームになつて彼等わ人間生活に必要な體驗お得、社會生活、社會道德お學ぶ。

ゲームわ彼等の精神と肉體お發達させる。

2. ねらいどころ

價値ある本能お發揮させ、そうでないものお良き方え誘導し、悪いものわ摘棄する。

人格の陶治鍛練、協力心の養成、感覺の練磨、觀察推理力の訓練、肢體、内臟、神經の正常發育。

3. 實施上の注意

單なる「ざれごと」でわないから輕卒に取扱わぬこと。

結果より過程の教育價値お重視すること。

友誼お失したプレイわさせぬこと。

一方に偏せないよう種類の配合に注意すること。

ゲームの配合にわリズムが必要である。

常に豫備のゲームお用意していること。

ルールわ簡單、明瞭、容易なること。

公明正大、ルールお嚴守させること。

人に見せんが爲のものでわない、彼等自身のためにするものである。

彼等の自發的興味でゲームおさせなければ、ゲームでなくなり勞働になり苦役となる。

風紀お紊すもの、下品なもの、慘酷なものわ採らぬこと。

その時の空氣に適するものお選び或時わ氣分お揚げ或時わ鎭めるようにする。

調子に乘つて度お過させないこと。

輕快、活潑、愉快にゲームするが空騒ぎせぬこと。

指導者も加わることわよいが、監督お忘れぬこと。

其のゲームのねらい所お肚にもちながら彼等にそれお明示させない事。

【勝者おきめる望ましき一方法】

スカウトゲームの勝ち負けのきめ方にマイナス點できめると云う方法がある。この方法わスカウトゲームの本質から云つてまことに望ましいことだと思う。

これわ、社會一般の競技わ競う兩者の夫々が、かち得た點數の多い方お勝

者とするが、マイナスできめるのわ失つた點數の尠い方お勝ちときめる。その方法わ、前者わ競う者わ共に初めぜろで相手お破つたときに初めて得點になる。つまり無から出發して點數お稼ぐか、或わ兩者平等の基礎點數お持つていて、相手お負すとその相手の基礎點數から點お奪つて勝つた者の基礎點數にプラスするかする。然るに後者の場合わ假令ば八人宛の班と班のゲームの場合、兩班わそれぞれ一人一點として合計八點宛お持つているものとして、その個人が何れもゲームに成功したときわ自己の點數お失わない、つまり確保出來るが、不成功の場合わそれお失う、從つてゲームが終つたとき、(この場合最初からゲームする時間お限つてもよければ、或わ適當のとき審判員が終了お告げてもよい) 兩班の不成功者つまり點お失つた者の數で計算してそのマイナス點數の尠い方が勝ち——當然自己の所有點お確保することに成功した者の多い方勝ち——となる。このやり方わ一見前者と違わぬ結果のようだが、實わその各々のもつ意義に於て大きな相違がある。卽ち、勝ち度いと云う積極性わ勝敗お主眼とする競技にわ然るべきであろうが、スカウトゲームのように溫い友誼お懷き、樂しみお共にしながら訓練又わ試練の手段としたものにわ勝敗わ二次的のもので、その過程に重點お置くものでわ、個人としてわ點お失い度くない、(プライドお失い度くない) 自班に對してわ點數減らさせ度くない (責任感) との意識に基く努力 (拙劣な者お非常に練習さわせる) により「技」の上達お圖ると云う考え方で、これなら動もすれば尖銳化すゲームが、常に友誼お保つて朗にプレイされて、且つ參加者の自己完成えの努力と云う點が一層教育價値お昂揚すると期待されるからである。

【班ハイク】 班行脚とも云う——班で行うハイキングのことで、これわ班員が常時習得したさまざまな知識技術の試練場であると共に、其處にわいろいろの新しい訓練が待つている。

スカウトのハイキングわ何か一定の目的おもち決して漫然と行わないのであるから、班の場合もその原則に從う、例えば此處に御嶽山と云ふ山があつてそれえ登るとする。その山の麓に驛があるからそこまで電車で行つて下車してから、團體的登山して頂上お極めて下山すると云うような單純なことおせず、此の場合一つの想定おもつ。

想　定

近頃御嶽山に惡者共が立籠つて良民お惱ますから、何々第何隊わこれお退治して良民お救うことになつた。

命　令

虎班わ來る何月何日何時その本據地お出發して、御嶽山の情況及び惡者共の動靜お偵察して卽刻本隊に報告すべし

と云う命令お受けて虎班わ出發する。こうなると虎班のその日のハイキングわ偵察動作だから表街道お一隊となつて進むわけにわいかない。二三名宛で潛行する。潛行にわあらゆる地物が利用され、時にわ道のない山林中お進む。それにわ先行者と後續者の間にスカウト以外の者にわ判らない。追跡サインで連絡お取りながら進む。その場合豫め出發させて置いた先達が所々に作業命令お隱して置くと、その指定されたスカウト作業おする。その作業が結索法の利用であつたり、野生食用野草や藥用野草の採集であつたり、野外炊事であつたり、土地の風俗習慣や特產品の調査であつたり、班善行の指定だつたり、土地、橋梁、河川、樹木、建造物等の高さとか幅とか平面積とか距離の測定であつたり、假裝傷病者の手當であつたり、凡そ平常彼等の習得した知識と技術のテストになるようなものお盛込んで置く、この作業命令で指定されたことおやりながら頂上お極めるから、彼等わ興味おもつてテストもされ、或わ實用價値も知り、或わ新しい知識と經驗お得ながら登山目的お果すことになる。

斯う云うやり方で登山するのだから社會一般で云う登山ハイキングとわ大變趣きが違う。

班ハイクに行く處わ山野の自然地、名所舊蹟と云う處ばかりでなしに、市街地、工場、市場　博物館　展覽會等々それぞれの意義お有つ所え行く。

山野のハイクに　市街地の行進に、それぞれ異つた行進方法がある。行進中わその何れの場合でも觀察力、記憶力、注意力の養成　視覺、聽覺、嗅覺の訓練が行われる。

山野のハイクにわイギリスのスカウトが用いているパトローリング（班行進）が應用される場合もあろうし、市街地の混雜道路お行く場合わ一列行進（並足）でゆく二人以上の横列にならぬようにする。これわ人通多い歩道お行くもののエチケット——道路常識である。

班ハイクお行うにわ豫め目的地お選定して、それに關する調査（地圖、文獻、既知者からの聽聞等による）おする。服裝、携行品 出發日時 歸着日時、大體のコース、費用等お班會議で決め、その計畫全部お隊長に届出て承認お受け、且つ全員各その父兄の同意お得てから實施する。隊長わ十分計畫お檢討して注意すべきことがあれば注意してからこれお承認する。場合によればその計畫立案に隊長が加つて、よき助言お與えることもある。

【班會議】、班わその班員のものである。因つて班が行動するにわ隊長からの命令以外わ班員が協議して決める。即ち班の自活々動であつてそれによつて班が成育する。

この協議が班會議である。

班會議構成のメンバーわその班の班員全體で、議決權わ全班員各自一票、平等の議決權お有つている。そして議長わ大體班長がなるが全員選擧で特に議長おもつてもよい、そしてそれが一定期間の常任でも、會議の都度選任してもよろしい。

班わ小さいながらも立派な自治體である。これによつて社會に出てからよき自治體員、即ち公民となる素質が作られる。

隊結成當初の班編成わ、班員相互の性格もよく判らないし、親しみも薄いから、假編成として假班長、次長お隊長が委囑し、基礎訓練案によつて初級スカウトの課程お訓練すると共に、スカウト生活お體驗させつゝ班生活お會得させ且つそれに親しませる。そして班生活になじんだ處で假編成お解き本編成に改める。

班の本編成に當つて班が決めべきもの、持つべきものわ班會議にかけて決定する。

1. 班名、2. 班動物 3. 班標識 4. 班呼、5. 班記號、6. 班標語、7. 班の仕事の分擔

以上の七つわ最初に決める事項である。次にわ常時的に

班行事、班善行、據出金額

等お決めてゆく。それに班全員に知らせべき事わ報告事項として此の會議で報告する。

班會議にわ必しも指導者が出席しない。出席した場合もオブザーバーとして列席するのであつてサゼツションお與えエヂケーションすることがあつてもリードわしない、班會議の議決權わ持つていないのだから票決にわ勿論加わらない。(指導者わ班會議に列席すると各スカウトの個性お知ることが出來る)

議事規則わ「おきて」十二ケ條が基幹となるが會議の運營にわ一般の會議の議事則によるがよい。それによつて公共の會議の方法お會得することにもなる。

班會議お開く定例日お決めて置く場合もあるが、時にわ班員が集合したときその場で開くこともある。

班會議の會場も屋內のときもあれば屋外のときもある。或わ食事中或わ野外ゲームの際、或わキヤムプフアイヤーのときなど、隨意隨所で必要に應じて行われる。ハイキングの途中道お右に行くか左に行くかお、全員で協議して決める場合も名實共に立派な班會議である。

票決の場合(票決わ投票が建前だが必しも投票お行わずとも贊否の意思おハツキリ表示の出來る方法お採ればよい)贊否同數の場合わ班長がその何れかに決める、つまり班長決裁である。

班會議で決定した重要事項わ班長から隊長え報告する。若し班會議に於て多數の意見によつて或事項が決定しても、その事項がスカウトとして行うべきことでないと認めた場合わ、班長わこれお隊長に申出てよく相談の上、その決定事項お不採用と決めることもある。

班の行動わ大小となく班會議にかけて決める。決して班長の獨斷で決めたり我意お押付けてわいけない。從つて班會議にわ各班員に充分發言させる。そして一旦決定したことわ、全班員が喜んでその決定に服し協力する精神お涵養する。

班會議にわ議事錄係お決めて必ず議事お記錄させる。議事錄係わ常任とす

るよりも、之れも全スカウトで當番おきめ、廻り持ちに順次その仕事お擔當することが望ましい。

【班記錄と班報告】 班記錄わ班の總ての行事に必要である。

班會議（議事錄）その他の集合集會、キヤムプ、ハイキング、ゲーム等々どれにもこれにも記錄係お定めて記錄させる。この記錄わ班の歷史でもあり他日の備忘錄でもあり 訓練參考書でもある。記錄お讀んでその班の活動振りも判るし 記錄によつて過去お顧て反省も出來る。又追憶の樂しみにも浸ることが出來る 。

班報告わ一定の日お定めて班長より隊長に提出する。隊長わこの報告によつて班及びスカウトの生活と、その成育の狀態お知ると共に隊長と班とお更に密接なものとする紐帶ともなる。隊長わ常時直接全隊員お指導しないで、上級班長若くわ班長お通して指導しているのだから、この報告によつて我が指導が正しく全班員に行われているか、否かが判り、個々えの指導目標も置きよくなる。

班報告に記載する事項わ

1. 班名、2. 班長名、3. 集合集會した日時及天候、5. その場所、6. その行事と名稱、7. 出缺班員數とその氏名、8 缺席者の缺席理由、9. 班員の健康狀態、10. 行事の大體記錄 ―例えばゲームならどんなゲーム、スカウト作業ならどんな作業、キヤムプフアイヤーならどんな出し物等々である。その他會計報告、スカウトとしての貯金の增減 ― これわ二級以上の進級規定に 節約或わ勤勞に依る貯金お一定以上有することに規定される。 ― この場合報酬お得た勤勞の內容の概略。

班員中の特別な行爲（善行など 或わ班員の家庭に起きた幸不幸の內容、出產 入學 結婚 葬祭、傷病等 ―

隊長わ、班報告わ班の記錄であり班の報書であるから、隊長としての記錄お持つべきであり、それわ隊の記錄係によつて作るものと、隊長自身で作る（秘密性お有する人事考課表）隊員個々の記錄である。これわ隊

長がスカウトの個々お握ると云う意味から重要である。

【班野營】 野營生活わハイキングと共に、最もよいスカウテイングの修練道場である。

スカウトの野營わ遊樂的或わ避暑的な贅澤なものでわ決してない。スカウトが日常訓練されたスカウテイングのさまざまなことお、自然に、或わ人爲的に、綜合的に試練され、且つ環境の變化によつて新しい訓練お自然に受ける神聖な道場である。

その野營お班だけでやるのが班野營である。天幕お用いるものもあるし、假小屋式（リンツー）なものもある。班野營わ班わ一つの家庭だと云う觀念お强調し、班員相互の親密の度お增し、共同生活の妙味お體得する。

隊の野營も、合同野營とか野營大會などの大野營も、班の野營が基本となるものであるから、班の野營生活に熟達していないと、他のものに迷惑おかけることになる。

一般のキヤムプ生活が動もすれば投げ遣り的な不仕鱈、無秩序に流れるがスカウトの野營わ高度の秩序お保つ、そのため彼等わ野營の「おきて」お作つてそれお守る。この「おきて」も根本わスカウトの「おきて」に置かれる。然しだからと云つてスカウトの野營が規則づくめで索寞なものにすると云うのでわない。正しい社會秩序お守る訓練お體得しつゝ野營生活お樂しむ。そこにわ炊事、食事、設營、自然觀察、ゲーム、ハイキング、キヤムプフアイヤー、星座の觀察、寫生、蒐集、動植物採集など科學の研究も行われる。平常會得したスカウテイングにより、山野、草原、海濱等至る處に新しい生活お營み、そこに巧まずして自然と教育環境お築いてゆくのがスカウトの野營である。

「野營わ準備に始まり格納に終る」これが野營家の鐵則である。隊長わ班が班野營お計畫したならその計畫お綿密に檢討して、準備に手ぬかりがないか、もしあれば注意お與えてからこれお許す。隊長に無斷で、或わ隊長の注意お無視する班野營わさせてわいけない。

班野營實施中、隊長がその野營お訪問して、親しく實情に觸れることわ望ましいことだ。殊にこの機會に班員と生活お共にし所謂一つ釜の飯お食うことわ生活指導の根本義でもある。

野營が終つて歸つたら、野營日誌や野營報告お提出させて、野營中の彼等の生活お知ることも必要であり、そして歸來した彼等が使用した野營用具お正しく手入してこれお格納したか否か、お知る必要もある。破損品の修復、紛失品や消耗品の補給　纖維品や木造品お芯まで幹燥させるし　幹燥が悪いと格納中むれて腐る）金屬製品わ錆びさせぬように手當させる。そして何時でも直ぐ野營に持ち出せるようにさせて置く。物の使い放しわ、物に對する親切心がないからであり、且つ物お徒らに朽ちさせてしまい、節約に反しスカウトの「おきて」に違い、「そなえよ常に」の標語にもとる。

キヤムプ生活が、用具のない爲不可能ならば合宿生活でも、その大半の目的お達することが出來る。この合宿生活わキヤムプシーズン以外の時季に於ても出來るから、キヤムプ用具のあるものもやるとよい。スカウトの合宿わ寄宿生活又わ下宿生活でわない。只寢所及雨中集合のため家屋に依つただけで炊事も便所掃除も一切キヤムプ生活通りスカウトの手でやり、もしスカウト以外、班の場合わ班員以外の人の手お煩わすことわそれだけ價値も興味もマイナスになる。

【班のクラブ室】 班員が常時集まる室お有つことも大切である。

それわ出來得なら一定の場所お望ましいが、出來なければ班員の家庭お期間お限つて廻り持ちにしてもよい。幸ひ隊本部にそう云う場所があれば、假りに大廣間（ホール）であれば各班に場所お區切つて充てるがよい。

班員わクラブ室おその班動物の巢と呼んで班用品お常置したり、日夜暇さへあればそこに自由に出入して、世間の悪い環境と離れ　樂しくスカウテイングにいそしめる。學習も　談話會も隨時作業の細工物も　室内で出來るゲームや、進級科目や技能章科目の修得或わ班會議などそこでやれるし、一面秩序ある屋内生活も訓練される。

維新前後から明治時代へ人物お輩出した鹿兒島藩に、藩の青少年の訓育機關である「健兒の社」と云うのがあつたことわ有名である。その健兒の社の鄉中（又わ方限）と云つて一定區域内に住む青、少、幼年の團體が、毎日の集會場所に「座元」と稱して鄉中の所在する區域内の家から一日毎の廻り持ちで部屋お借り、そこおその日の自分達の天地として、智育的及び德育的ないろいろの行事おやり、雄て立派な武士となる修業おした。これわスカウトのこのクラブルームと同じ行き方であつた。要わ彼等に彼等自らの手で教育環境、生活環境お築かせて、其處で苦樂お共にしつつ相互教育の實お擧げさせようとするのである。

【班意識の强調と班制教育の目的】 スカウテイングお修練する基本グループとして、然も有機的存在である班わ、彼等のものであると云う意識お强く持たせる。前述の班制度の諸々の要綱わ之れ總て班意識お强調する手段でもある。この意識の昂揚發展によつて班が伸び育つ、從つて班員が成長する。

彼等が班生活に於て人と協力することの喜びと、その共同の力の如何に偉大なものであるか、そしてその善用が國家社會上如何に大切であるかお體得する。

班意識の强調に於て特に注意お要することわ、班生活わ人類社會上の共同生活の單位としての經驗お會得させるものでもあるから、自班オンリー主義に流れないで、正しきことにわ誰れとでも、どのグループとも協力すると云う心構えお養うことである。つまり社會生活のコツお會得させるのである。

パトロールわグループワークの高度なものであり、その眞の目的わ、パトロール（グループ）お通じて個人お作る。云い換ればパトロール（グループ）わ個人お作る手段であつて、團體訓練が目的でわない。B・Sわ個人が集つて班となり、班が集つて隊となるもので、隊があつて班に分け個人お從屬させて團體訓練お行うものでお決してない。グループによつて人と協力する樂しみお體驗しながら秩序ある社會お作り且つ相互教育——切磋琢磨によつて個々お磨きよき公民となるのであるから、誤つて班が唯我獨善的弊に陷

いつて非社會性お帶びないように注意すべきである。

一つのグループに於て磨かれた個々わ、正しいことであるならば、何時でも他のグループ或わ他人に協力する喜びと能力お持ち、健全な社會お築くものである。

【班の傳統】 傳統と云うものわ、作るべくして出來るものと、偶然のチヤンスで出來るものとある。然し何れの場合から出來たにせよ、傳統お有つものわ、歷史お有つもので班の在り方としてわ重要である。

班員が何か一つ、假令どんな小さなことでも氣にとめて、例えばハイキングの途中、晝食お食べた處とか（小休止の處でもよい）キヤムプおした處かに草花のたね（野菜のたねでもよい）お蒔く、そうして置くと後にその地お通つた人が思わぬ所で、思わぬ草花お見付けて喜ぶことになる。これおその班のハイキングなりキヤムピングなりの必須行事とすると、この班のハイクなりキヤムプの一つの傳統的しきたりになる。これも一例だが或班が前年の夏、設營した土地に次の年の春ハイクの途中立寄つて、前年の野營中たまたまこぼれた豆の實が、時お經て芽生えて成長し、可憐な花おつけていたのお見つけて深い感懷に浸つたと云う偶然から、その班わその後キヤムプ生活の都度必ず草花や野菜の種お設營地に蒔いて、後に誰れかしらその地に來る者に豫期しなかつた悅びお與えることにした。これわ偶然なチヤンスから一つの立派な傳統お有つに至つたものである。

班の傳統わ、愛班の精神、班意識お昂揚する上に大切なことである。

【班長班】 上級班長、班長及次長の項で述べたように、この地位についたスカウトわ、それぞれその立場およく認識していなければならぬが、隊長自身も彼等の立場、その任務の本質およく理解していなければならぬ。

第二次世界大戰前在つた我國のB・Sにもその傾きがあつたが、我國の教育界全般お通じて、動もすればそれぞれの役職名と云うものが本質と相違したり、有名無實的存在になつたり、或わ對少年指導機關に於てわ、たとえ一つの地位につかせても、それわ被指導者として他の者と一率、一體に指導お

受けさせて、彼等お指導者として扱わないし、年少幹部としての責任お自覚し、與えられた任務の遂行おするようにも扱われていない。指導者とお大人お云うもので、彼等わその大人が機械勞務者のように行動させれば足りると云う考え方が多い。然るにスカウテイングに於てわ斯る行き方わ許されない。往年或種の隊 ——その時分わ、團と稱して數十名乃至數百名お、一人の團長の下に數人乃至數十人の指導者と云う大人によつて指導お行い、形式的に班制お採用して、その班長にわ指導員と云う大人がなつていたものさえあつた 斯かるものに於てわ、スカウテイングの本質の遂行わ不可能であつて、このような誤謬わ再建B・Sに於てわ絶對に許容されない

少年お責任ある地位につかせて、上手にこれお活用すれば、彼等わその責任感お發揮して、その任務お遂行すること驚く程のものであることわ、上級班長の項に於て述べた通りである。然るに從來の弊わ、少年おそれ程信用せず徒に杞憂して、彼等にその地位お與えながら實質お與えなかつたり、或わその地位さえも指導員と云う大人によつて占めると云う行き方お採つていたものである。

隊長わ、上級班長や班長の適性者お養成して、その地位と任務の本質お彼等に遂行さすべきである。

從つて各班の班長及び長で「班長班」——グリーン・バー・パトロール（班長章の綠線から出た名稱）——お作らせ、上級班長があれば、それが班長となり、それのない場合わ、それが出來るまで隊長自身が班長事務取扱となつて、班長班の訓練や會議おやる。班長班としてのキヤムピングもハイクもゲームもやる。斯うしている裡に上級班長や班長わお互に各班の實情およく知りあうことにもなる。

班長班が會議おするときわ班會議の場合と、班長會の場合とあり、後者の場合わ、隊長の出席があれば隊指導者會（トループ・リーダー・カンシエルー）である。

前者の場合わ班長班が訓練集會に當り、その集會の前又わ後に十五分位ヅ

ログラム等につき協議するときで、これわ各班の班會議と同じ性質のものである。

スカウテイングわ人と人の接觸お基底とするから、隊長や上級班長が、絶えず各班長次長と會議や訓練お一緒にすることが、その目的達成に大きな力となる。

【班訪問】 班わ班お高度化して、その教育およりよくするため、各班互に班お訪問する。これわ一面にわ班相互の友誼お厚くし、同じ「ちかい」おして同じ「おきて」お遵奉するB・Sのつながりお一層深くするものでもある。

この班訪問わ、班のクラブ室のときもあり、班の野營のときもあり、其の他班としての集會集合のとき、班員揃つて班として他班お訪問するものである。この訪問わ、訪問する方の班と、訪問される方の班との間に、前以てよく打合せ（場所、日時、人員等お）おしておいてすることが必要だ。他班の都合お考えないで、自班だけの都合で訪問したり、出しぬけに訪問することわいけない。

班訪問によつて、お互の班が、それぞれの班生活お見合うことわ、互に班の發展に資することが大きく、斯くて各班わ磨かれる。

訪問の打合せわ、各班が班會議できめた案お、班長が、班長會のとき相手方の班長とすれば、容易に出來る。

隊長わ、この班訪問の熾んに行われるように奬勵するがよい。

第二章　進級制度

制度の意義と考査方法・初級スカウト考査科目・二級スカウト考査科目・一級スカウト考査科目。

少年達おスカウテイングに熱中 — 精進させるにわ、彼等の心理お把握し、その向上心に副い、興味の連鎖お圖ることが大切である。

彼等の心身わ日夜活動し、成長しつつあるのだから、B・S生活にいささかでも停頓停滯があれば、それわ不適合のものとなる。そこでその進行プログラムとして、この進級制度が重要な意義お有つているのである。

前項に於て述べた「班制」が、少年の心理に基き、その本能による欲求からの徒黨仲間と餓鬼大將システムお巧に採入れているが、これだけでわ單にグループワークお作り、そこに仲間同志の切磋琢磨、相互教育お圖つたのみで、その訓練内容わ雜然としているか、不足しているから、此處に秩序ある進行プログラムとして、この進級制度おもつことが至上要請となる。

そしてその進級プログラムおより完璧なものとし、且つ、一層の興味と關心お持續させることおも圖つて技能章制度お附隨させて、茲に初めて完全無缺のグループワークお築くのである。

進級わ考査制度によるもので、その方法わスカウテイングが、講義主義、暗記主義、詰込主義のものでないから、從來の學校教育に於ける試驗とわ大いに趣きお異にしている。

考査お受ける科目及びその内容わ後で述べるように豫め明示されているから、彼等わこの明示されたことが出來ると自信すれば、何時でもその旨お隊長に申出て考査お受ける。それわ全科目お一度に受けてもよいし、一科目宛受けてもよい。斯うして全科目が合格すれば進級する。

進級すればそのクラスの記章の佩用が許され、且つ、登錄證にその旨が記入される。

この記章の佩用わ彼等に一つのプライドお持たせると共に、更に上級の記章お得たいと云うあこがれお持たせ、從つてそれお得ることに努力する勵みとなるものである。

何事にも、あこがれお持つことわ大切で、そのあこがれに向い努力邁進する處に張り合いがあり、育つてゆく。少年時代わこのあこがれが強く、向上心が熾んだから、この制度わ巧にそれお捉えて行うものである。

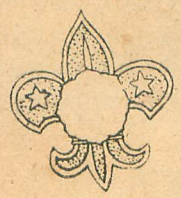
明示されている考査科目わ大して六ヶ敷しいものでわないが、只學科的に理論だけ暗記しても考査に應じられるものでわない。指導お受けて反復練習し、すつかり飲み込み、何時どこでその實行面に當つても實行し得るようにならなければ及第點わ貰えない。斯う云う意味お知ると少年達わ熱心にそれが出來るように精進する。そして初級から二級に、二級から一級にと僅な年月で進級する。然もその進級過程に於て彼等が覺えたことわ、彼等の學校生活に、或わ家庭生活に、日常それぞれ役にも立つし、嬬て社會に出た時、常識豊かなよき公民となる資質となるものである。

進級考査科目

初級スカウト考査科目

假入隊の一ヶ月後、次の考査に合格した者わ「ちかい」おした後、初級スカウトとして初めてスカウト章お附けることが出來る

初級スカウト章



「體驗お積み實踐することに重きお置くB・S教育に於てわ、その生活お經ることお重要資格とする。次にスカウト章わ、初、一、二の三階級に別けてそれぞれ制定されているから、一面に於てわ級別章でもある。そしてこの級別章の佩用わ彼等のあこがれであり、ほこりであるが、そのほこりわ自慢的誇示でわなく內面的內容お持つプライトである。卽ち、これわ單にその級のスカウトであることお表示するだけでなく、そのクラスの進級プログラムに盛られた事だけ人のお役に立ち得ると云う表示である。このことも後述の技能章に於ても同樣の意義お有つものであるこ

とお銘記すべきである。この點わベーデンパウエル卿の說かれた「スカウトの義務わ有要な人物となつて、人おたすけることだ。」と云う點から考察しても明らかである。

(一) ちかい、おきて及標語お暗記し、その意義お說明し、」且つスカウト章、スカウトサイン及び一日一善の意義お說明すること。

ち　か　い

私わ名譽にかけて次の三條の實行お誓います

(スカウドわ名譽お生命とする。總ての行いに自己の名譽お汚すようなことおしない。だからスカウトわ信賴される。そこにスカウトとしてのプライドがある。その名譽にかけ次の三條お誓うのだからこれに叛くことわ、自己の名譽お自ら汚し自ら失うことになる)

一、神(佛)と國とに誠お盡しおきてお守ります

(この神(佛)わ本人の信ずるもので何教何宗何派でもよい。要わ信仰心お持つことで、無宗教者——唯物論者であつてわいけない。神の攝理お信じて、これおあがめ且つ自己の信ずる宗教の他の宗教お排撃しない。自分の國の大切さお知る。そして、神(佛)と國とに誠お盡し、スカウトのおきてお守る——誠わ人間美德百般の根源であり、おきてわスカウトの日常の物さしで、自分の行動がこの尺度からはづれてわいけない)

一、いつも他の人々お援けます

(孔子の云う仁であり、佛教の慈悲であり、キリスト教の愛である。我れさえよければでわこの世の中わ平和な明朗なものとわならない、身お殺して仁おなす、自分お犧牲にしても人の爲に援助お惜しまない。他お幸福にすることが卽ち自分の眞の幸福である。これが親切心の顯現でありB・S運動の創始者ベーデンパウエル卿わ、その著スカウテング・フオー・ア・ボイースの、かゞり火のつどいの話のその四のスカウトのおきての說述で、「スカウトの義務わ有要の人物となつて他人お助けるにある」と說いている。

一、體おつよくし心おすこやかに德お養います

(神心獸體と云う古語がある。正しい心わ健康な體に宿る。生育旺んな少年時代先づ體おつよくし、けがれない心お育て、德お養う。德のない

ものわ禽獣にもおとる）

お　き　て

一、スカウトわ誠實である

スカウトの眞の資格わ信用され得る人間にのみ與えられる。うそお云わず、ごまかしおせず、信頼されて托された任務お正確に行うことなどわ總てスカウトの名譽お保つ基礎である。

（スカウトわ名譽にかけて「ちかい」おした。名譽おスカウトの生命とするからである。その名譽お保つにわ誠實であらねばならぬ。誠實お失うことわ信用お失うことになり從つて名譽お失い、名譽お失うとスカウトでわなくなる）

二、スカウトわ忠節おつくす

スカウトわ義務おつくすべき相手に對し常に眞心お以て義務おつくす、即ち國家に對してわ忠誠であり、社會及び家庭に對してわ忠實であり、兩親に對してわ孝行である。

そして自分の利益や我儘のために此の義務お怠ることわない。

（忠の字義わまことであり、節わ志お變えないことでこれわ共に字義通りの解譯でよい。スカウトの義務わ前述のように有要の人物となり他人お助けることであり、その遂行にわ自己の快樂、慰安、安全お顧慮すべきでない）

三、スカウトわ人の力になる

スカウトわいつでも人お援ける用意がある。不時の災厄に善處し、人命お救助し、負傷者お看護し、常に進んで家事お手傳う、又恩返しの心で毎日少くなくも一つの善事お行つて社會に奉仕し、そして報いお求めない。

（人お援けるにわ自分に常にその用意がしてないと出來ない。金品の面でも常に節約して貯えて置かねば立所に用お達し得ない。勞力にしても常に健康に身お持さなければ役に立たない。人命救助も、看護もスカウテイングでその方法お修練體得していなければ出來ない。恩お知り恩に報ゆることわ人として大切なことである。恩知らずとか忘恩家と云われるものわ不名譽のことでスカウトにわいない。善事お行う

ことも亦人として當然のことで、それお毎日少くても一つわ行う。先覺者の言葉に、人のお世話にならぬよう、人のお世話おするように、そして報お求めぬようと云うのがある。善いことおしても報お貰らつてわ、それわ商取引で善行でわない）

四、スカウトわ友誼に厚い

スカウトわ總ての人お友達と思い總てのスカウトお兄弟として、正しい明るい社會お作る。

（善隣愛お實踐して人種的、宗教的、階級的、排他意識お持たず、動植物さえ友としてこれおいたわる。世界各國のスカウトわ兄弟としてその誼みが深く、國際友好の先驅者である。斯うして人類平和の大理想境お築き上げる。友誼お裏切るものわその聖業の同志でわない）

五、スカウトわ禮儀正しい

スカウトわ長上お敬い何人おもさげすまない、どんな人にも不愉快な思いお與えず叮嚀に接する。

（社會秩序お保つ上からも禮儀の正しさお必要とする。古人わ禮楽れて亂となると云つた。人々互に分お守つて威張らず、なごやかに人に接すれば不愉快な感じお懷かせない）

六、スカウトわ親切である

スカウトわ總ての人、とりわけ婦人、老人、病人、助けのない人達に親切である。又動植物わ云うまでもなく一般の品物おも親切に取扱う。

（他人の難儀お見ていない、婦人や幼兒、老人、病人、不具者、負傷者其の他困つている者に力お貸したり助けたりする。然もその親切わ只人に對するばかりでなく、動植物、器物、物品等すべてのものに對してである。例えばナイフなら、ナイフの本質と用途およく知つてその力お發揮させ常にその保存に心お配る。ナイフで薪お割るような亂暴な使い方おしたり、使用後の手入お怠つて錆びさせることわナイフに對する不親切である）

七、スカウトわ從順である

スカウトわ兩親や先生や、隊長、班長其の他の長上に素直に服從する。

又法律や公の決定わ必ず守る。

（従順が秩序お守る。遵法精神も従順なればこそ守れるのである。従順でないものゝいる所に平和わない）

八、スカウトわ快活である

スカウトわいつも朗らかで笑顔お忘れない。受けた命令にわ喜んで従いどんな困難な仕事も進んでやり、不平や不満お決して云わぬ、言葉や動作わはつきりとする。

（快活と空騒ぎとおはき違えてわいけない。困難な仕事も避けず云われたことわきつとやる。不平と云い訳わ誠意あるものゝ云うべきことでなく、不満わ平和お破る基である。動作や言語がキビキビしていると周圍が自ら明るくなる）

九、スカウトわ質素である

スカウトわぜいたくおせず、物も時も無駄にしない。常に節約に心がけて後日に備える。それわ必しも自分のためのみでなく他の人のためにも役立つ。

（衣類、食物、住居、學用品初め持もの一切等實用第一、用が足りると云う點に重きう置く。物の價値お重じて、氣まぐれに金錢お浪費したり、物品お破棄したり、時間お空費しない。質素であれば當然儉約が行われる。その節約したものわ自分だけでなく他人のためにも用立てる。儉約と吝嗇とわ紙一重だが吝嗇に陷つてわいけない。節約して貯えた金品お何時でも一般の義損に應じて世の中のよい事に寄附する）

十、スカウトわ勇敢である

スカウトわ危險お恐れず笑つて困難にあたる。又正義のためにわ他人の嘲笑や冷罵お意とせず、甘言や脅迫に動かない。そして後に悔お殘さない。

（千萬人と雖も我往かんの大勇猛心お以て正義お守り行い貫くものが眞の勇者であつて、フツフツ愚痴お云つたり、遲疑逡巡したりしない）

十一、スカウトわ純潔である

スカウトわ身體も心も行いも常に清い。よい習慣お身につけ、上品な言葉お使い、正しい樂しみお持ち、立派な仲間と交わる。

（教養の深さわその人の言行によつてよく知れる。けがれのない正しい心お持ち、身體も服裝も清潔にし賤しい事お口にしたり、惡い友達お持つたり、よくない遊びおしたり、惡い場所に出入したりせぬようにする。思想も言語も行爲も清らかに——そして世の人々が純潔であれば社會わ常に清い）

十二、スカウトわつつしみ深い

スカウトわ信仰の心お篤くしてそのつとめに勵む。然も謙讓の心お失わず他人の信仰や主張や風俗お輕じない。

（敬虔な心お有つ、そして他人の信仰する宗教や主義主張や風俗お輕べつしない。自分自身の日々の言動が「おきて」十二ヶ條の各條に照して違つていないかよく反省する）

上記の「おきて」わ何々すべし、すべからず式の他律でなく、スカウト自身斯くあると云う自律であり、「ちかい」も亦自分の名譽にかけて斯くしますと、自發意思に基くものであるから、指導者わ「ちかい」「おきて」の各條の意味おスカウトに了解させると共に根本義としてこの「ちかい」及び「おきての」在り方およく知らすべきである。他律わ弱いが自律わ強い。鞏固な意識が涵養される。

標　語

「そなえよ常に」この標語わ世界各國のB・Sの共通した標語である。

備えあれば憂いなし。これわ獨り人類だけでわない、鳥獸昆虫の類にさえもその眞理お行つている。

スカウトがその生活信條——心の源泉である「ちかい」と生活規範——日常の物さしである「おきて」お守り、且つ、そのスローガンである一日一善お實行するためにわ常によくスカウテイングお修練して居れば、この標語の實踐が出來る。

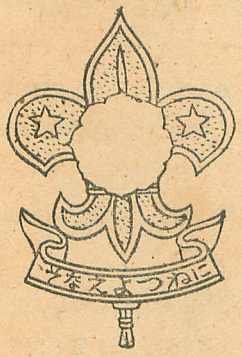
スカウテイングわスカウトの身だしなみとなるもので、その身だしなみがあるものに於てこそ初めてスカウトであることの喜びと誇りがある。この身

だしなみのないものにわこの標語わ死語となる。

スカウト章

B・Sの徽章である。この徽章の全體の形わ世界各國殆ど共通である。そしてその一部分にその國特有のものお配して、その國のB・Sであることお現わしているものもある。例えば左揭の我國のスカウト章わ花辨形の中央に我國古代の鏡お配しているようにである。

スカート



この徽章の構成わ

(1) 百合の三つの花辨から成る花形、(2) その花辨お束ねたロープ、(3) 左右の花辨に各一個の星、(4) 中央に一面の鏡、(5) 花辨の下部に擴げられた標語お記した卷物、(6) 卷物の中央下部にさがつた紐、以上六つのものである。

(1) の百合の花形わ愛の象徴であり且つこの形わ羅針盤(コンパス)の北お指す針の頭について居り、スカウトわ人生の方角お指すものだと云う意味もある。三つの花辨わスカウトの「ちかい」三ケ條お表現しているものである。(2) の花辨お束ねたロープわ協力、共同お意味し、(3) の左右の花辨に附された二つの星わ眞理と知識お示し、中央の鏡わえい智と反省お表わしているものであり、且つ前記のように日本古代の鏡わ日本お象徴するものである。(5) の卷物わスカウトの口元、しかも微笑した口元お示すように擴げられて、それにスカウト標語が記されている。(6) の紐わ結び目がついている。これわ日々の善行 — 一日一善お想ひ起させるものである。

このスカウト徽章お佩びることわ、我れわスカウトであると云う誇りとその手によつて人類愛に滿ちた平和な世界お築くと云ふ理想おもち、それに向つて常時努力、精進するものであることの標識である。

級別章わ初級スカウトわ花形の部、二級スカウトわ卷物の部と分割して之れお用い、一級スカウトになつて初めてスカウト章の全貌お佩びることが出

來る。

スカウトサイン

スカウトサイン

左圖のように右手で三指お作る。（右腕お横に肩と水平に擧げ二の腕お上方に曲げて、親ゆびと小指お曲げ他の三指お眞直　地面と垂直に伸ばす）

これわ「私わスカウトである」と云う仲間同志の記號であり合印である。然もこの合印わ世界各國のB・S共通である。そして「世界中のB・Sわお互に兄弟愛お持つて助け合う」と云う意思表示でもある。

眞直ぐに伸した三本の指わ「ちかい」の三ヶ條お片時も忘れていないことお表わすもので、スカウト章の三つの花辨と同じく「ちかい」三ヶ條に深く意義附けられている。

このスカウトサインわ

「ちかい」お行うとき

「ちかい」お唱えるとき

「おきて」お唱えるとき

スカウト同志の挨拶

等に行われる。

（「ちかい」わスカウトとなるとき一度行い、他わ「ちかい」お想い起すため機會ある毎に唱える。スカウト章わその「ちかい」お常時身に體することお象ちで現わして佩び、スカウトサインわ機會ある毎に自らこれお示現する。斯うして「ちかい」お彌が上に強調する）

【左手握手】 スカウトわ同志であるとの表現お兼ねてスカウトサインおしながら、お互に左の手で握手おする。これわ左手わ心臟に近いと云う點でお互に血の通つている兄弟だと云う意味おもつもので、兄弟愛お表現したもの

である。

左　手　握　手 (1)

この親愛表敬の挨拶わ、スカウトサインと同様、世界のスカウト共通であるが、只握手の方法にイギリスでわ左手で、普通の人が右手で握手する通りの握手おするだけだが、（左圖參照）アメリカでわ親指と小指お中の三指より離して擴げて置いて握るからお互の小指が組合せとなつて恰も三指のスカウトサインが握り合うようになる方法お採つている（上圖參照）

左　手　握　手 (2)

(二)　我が國旗の由來、意義、正規の様式及び掲揚法お説明し、且つ五種以上の外國々旗お正しく描き得ること。

自國の國旗のことお知ると云うのわ愛國心の涵養であり、外國の國旗のことお知ることわ、ちようど「おきて」の十二條の傍書に在る「他の信仰や主張や風俗お輕じない」と云うことゝ同じように他國の本質お知つてそれお尊敬し、侵犯しない。從つて國際友好、世界平和の思想お涵養することになる。

世界何れの國にも、それお表徴する國旗があり、それわそれぞれの國の深い意義に基いて制定されたもので、その國民わ何れもその國旗お愛敬しているし、その國旗の下に保護されている。

我が國でわ、從來動もすれば國旗の有つ重要性お無視して、國旗わ儀式の際のお飾り的物品の一つ位にしか考えていないように見受けられたがそれわ大きな誤りである。

その單的なあらわれわ、何か催物のような場合、萬國旗お會場等に張りめぐらすが、國旗の本質お知ればあのようなことわ出來ない。

お飾り的に自國わ勿論他國の旗おあのようにして會場等に張りめぐらすことわ國旗に對する即ちその國家に對する侮辱になる。斯る場合使用するなら萬國信號旗お使うべきである。もともと萬國旗おあのように張りめぐらすことわ滿艤飾、滿船飾お眞似たものであろうが、滿艤飾滿船飾わ艦船が儀式その他の催物の場合、國際的に海事法などで定められてどの艦船も所有する萬國信號旗お利用して飾りとしたもので、決して萬國旗お張りめぐらしたものでわない。

自國の國旗と他國の國旗お共に揭げる場合同一揭揚柱（竿、塔、綱）に一方お上部に他方おその下部に揭げたときわ、上方の國旗の國に下方の國旗の國が保護されていることお表わすもので、これわ國際慣習となつているから、各獨立國の國旗おその様にして揭げれば、意思わ表敬にあつても事態わ侮辱お示すことになる。斯程の重要な意味おもつ國旗の揭揚法おはつきり知つていないと眞の國際人とわ云われない。このことわ獨り揭揚法だけでなく、その國の正しく定めた國旗お用いぬと本當の意味の愛敬と云うことにわならない。

國民わ、その國の國旗の由來、意義、正規の様式、正しい揚げ方お知ることわ一般常識である。寧ろそれわその國民の義務であり、その國民によつて築いている國お愛する心即ち愛國心の表現である。

我が國が日章旗お國旗として制定したのわ明治三年一月二十七日で、この日大政官布告第七號によつてその旨布達された。併し日章お旗に用いたのわ、推古天皇時代からしばしばあり、殊に萬延元年アメリカ合衆國え德川幕府から使者お送つたときの軍艦咸臨丸わ日章旗お飜してゆき、安政元年幕府わ法令お以て日章お日本總船印とした、越えて文久三年八月七日にわ「一般御國標としてこれお用ゆべし」と幕令お出した。

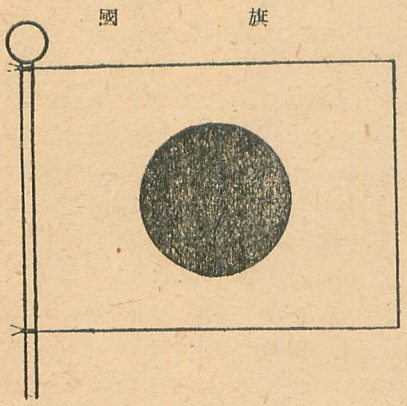
日章旗の構成及表現の意味わ、白地わ純眞で平和お意味し、赤わ赤誠その丸わ圓滿お意味する。日の丸自體わ太陽お象り、太陽のように光り輝き亘つて、その溫き光お以て萬物お生成育伸するような、親切な明朗な正しい國であることお示している。斯のような美しい理想おもつものお、時に國お運營する者の邪しまな考えから、國の在り方、進み方おゆがめて、正しいものでないようにすることがあつた。それわ恰度黑雲が出て太陽おおうようなもので、太陽自體わ決してよごれも、けがれもしない。即ち我が國の本然の姿わ、一時的に、しかもその表面おゆがんだ

ように見せられても、決して日章旗に示された精神わ變つていない。

特に興味すべきことわ、一九四九年の年頭に於て、日本占領聯合軍總司令官マツカサー元帥の日本國民宛メツセージに、國旗の無制限揭揚お許して

「前略——この國旗が人類のひとしく探し求めてきた正義と、自由の不易の觀念に立脚した平和の象徵として、とこしえに世界の前にひるがえらんことお——中略——また日本經濟建設の義務に向つて、日本國民の一人々々おふるい立たせる輝く導きの光りとしてひるがえらんことお念願するにほかならない」

と述べられている點である。



前記布告による正しき國旗わ左圖の通りで、これにより縱幅二尺一寸(六三糎六三三)の旗お作るとすると、その横幅わ三尺(九〇糎九〇九)となり、日の丸の大きさわ徑お一尺二寸六分(三八糎一八二)とし、日の丸の中心お旗面の中心より風上(旗竿につく方)に寄せること二分九厘八毛(九粍〇三)强とするのである。

揭揚法わ旗お旗竿の先きにぴつたりつけて揭げるもので、若し竿頭より下方に揭げてあればそれわ半旗と云つて弔旗となる。

外國々旗ノ中に逆に揭げた場合わ遭難信號となるものもある。

旗竿わ直立する方が本式であるがなゝめに建てゝも違法でわない。

門又わ家の入口に揭げる場合內部から外え向かつて右側に揭げる。外國々旗と共に揭げる場合わ、內部から外に向い右に之れお揭げ、自國の國旗わ左側に揭げる。

交叉して立てる場合わ外國々旗の旗竿の根本お左側に置き、自國々旗の旗竿お右側に置くと揭げられた兩國々旗わ外國々旗が右側に、自國々旗が左側と揭げられる。要するに內部から外に向ひ右側お上座にするか

上座に外國の國旗お揭げることが禮儀である。

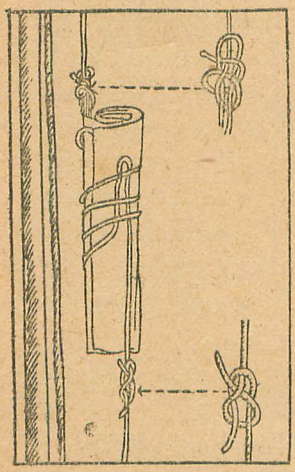
國旗お汚損したり破棄したりすることわ、その國家お侮辱することになるから取扱上氣おつける。

國旗の神聖さわ、揭げられたときに發揮するもので疊んで置いてある場合わ物品である。だがこれわ單なる道具類でわないから疊んであつても可重な心持ちで扱い地上や疊の上へ放り出して置くことのないよう心掛くべきことである。

揭揚に當つても旗お地面に觸れさせぬように注意お要する。

ボーイスカウトでわ、野外の集合や野營等多數集つたとき、國旗揭揚お行うがそれにわ次のような儀禮化した揭揚おする。

國旗の取り付け方
（上部二重接ぎ、下部一重接ぎ）



一定の時間に國旗揭揚柱（必ずしも柱——塔によらない。旗竿お建てる場合もあり、適當の處に自然の樹木があればそれお利用することもある）お中心に、全員が圓形又わ馬蹄形に集合して、揭揚係が揭揚準備おし、「あげ」の合圖で靜かに揭揚索おたぐつてあげる。このとき助手わ國旗お持つて布端が地面に觸れぬようにする。整列者わ「あげ」の合圖で國旗に注目して敬禮し、國旗が規定の位置にとまつたとき敬禮おやめる。

右の場合國歌お一唱する場合もある。

又國旗おたゝんだまゝ揭げて竿頭に達したとき他の索お引いてパツト擴げる擧げ方もある。このとき整列者も國旗がパツト擴がつたとき國旗に敬禮する。

豫めたゝんだまゝあげておいて索お引いてサツト擴げる方法もある。

弔旗わ擴げてあげられた旗が一度竿頭に達してから、その旗幅の二三倍程度の距離だけ下げた處で停める。弔旗お降す場合わ矢張り一度竿頭まで引き上げてから下降する、（弔旗わあげる途中で停め放しに固定したり、竿頭より下がつたまゝ降したりわしない）普通の揭揚旗お降すときに、降納の儀式——大體揭揚の儀式に準ずる——お行う場合もあるが、

野營地などでわ集合せずに例えば作業中なら、全員わその作業のまゝで、降納係だけが掲揚柱の所に走き降納する。この場合降納合圖——大體笛で降納開始が長一聲降納終りが短一聲——で全員わその居る場所て掲揚柱のある方位に面して起立、敬禮する。

國旗の掲揚時間わ日出より日沒までであつて野營中掲揚時間お決めるが、降納わ時間で示さず日沒時おその時とする。(一般でも夜間まで掲げてあるのわ大體降納お忘れたもので、國旗に對する敬虔の念お失したものと見られる。掲揚及降納の係りわその役目お行うとき國旗に敬禮してから、掲揚又わ降納の操作お行う)

(三) 本結び、一重纏ぎ、てぐす纏ぎ、ひと結び、ねぢ結び、ふた結び、巻結び、てこ結び、もやい結び、腰掛け結び、引解結び、縮め結び、垣根結び、止め結び、8字結びの十五種の結索法中本結び、止め結び及び其の外8種の結び方お知り、且つその用途用法お實地に説明すること。

(スカウテイングでわハンドクラフトと云つて手技お重視している。結索の原理わ磨擦の應用であり、この訓練わ手の練磨に最もよき方法の一つであり、感覺訓練ともなるものである。しかもこれわ少年のスカウト生活わもとより學校、家庭、社會のどの方面の生活にもすぐ役立つ作業でもあり、興味も深いものである。然もその訓練わゲームや劇、ハイキング、キヤムピング、操舟等に自然と或わ人爲的に織込れ、彼等わ勞勤視せず實用面まで會得することが出來る。上記十五種のうちその用途の例おあげると

イ、二本の綱(紐)おつなぐ結び方

1. 同じ太さの二本の場合　本結
2. 太さの異る二本の場合　一重纏ぎ
3. その各お解き易く結ぶ場合　兩膝折又わ片膝折本結び(外科結び)膝折一重纏ぎ
4. 絶對に解けない二本のロープの纏ぎ方　てぐす結び

ロ、止め結(コブ)の仕方　一結び(とめ結び)8字結び

ハ、輪お作る結び方

1. 伸縮する輪結び　わな結(引とけ結び)
2. 伸縮しない輪結び　もやい結び

ニ、結着に必要な結び方　巻結、てこ結び、材木結び（ねぢむすび）
ホ、伸縮自在の結び[redacted]、二重結び
ヘ、切らないで網お縮める方法　縮め結び
ト、人命救助に必要な結び方　もやい結び、てぐす結び、腰掛結び（四種ありその内の一つ）二重巻結び、材木結び
チ、網の端し止め　索端止め
等となる、（中村知氏の分類名称に據る）

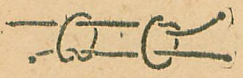
結索（なわむすび）圖解

止め結び

本結び

一重纖ぎ

てぐす纖ぎ



ひと結び

ねぢ結び

ふた結び

巻き結び

てこ結び

もやい結び

縮め結び

腰掛け結び

垣根結び

引解け結び

8字結び

以上が初級スカウトになる進級考査の内容で、この考査わ隊委員立會の下に隊長が行ひ、合格者に初級スカウト章お交附する。そして本人の持つている登錄證にその旨お記入してやる。

二級スカウト考査科目

（考査方法も、事務的處理も、初級考査の場合と同樣である。）

初級スカウトとして二ケ月以上の生活お經て、次の考査に合格した者お二級スカウトとする。

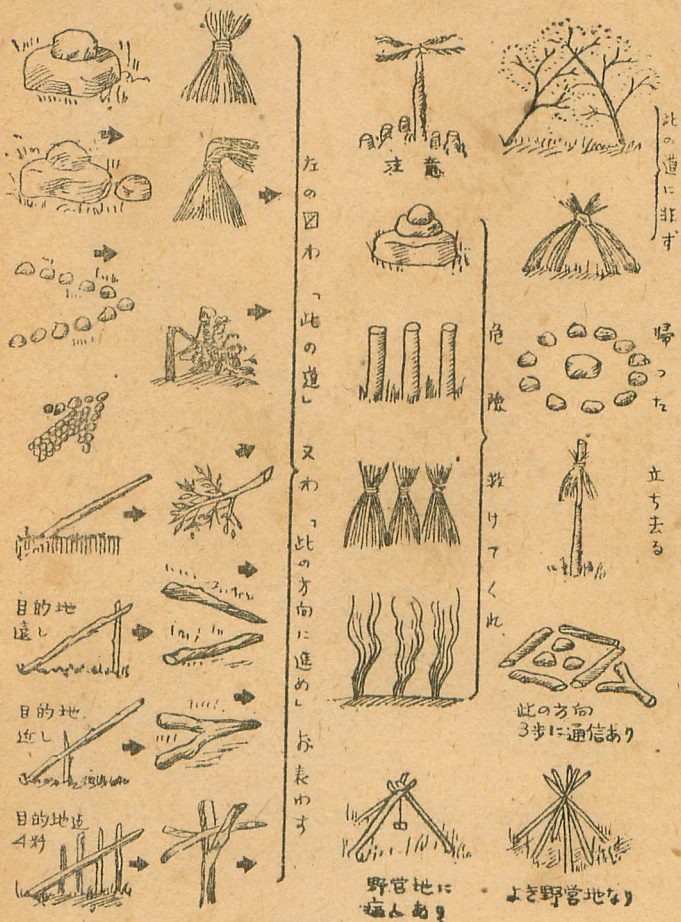
二級スカウト章

（一） 三十分間に二粁の追跡おなし得ること。或わ二十四箇の物品お一分間觀察した後十六箇以上記憶していること。

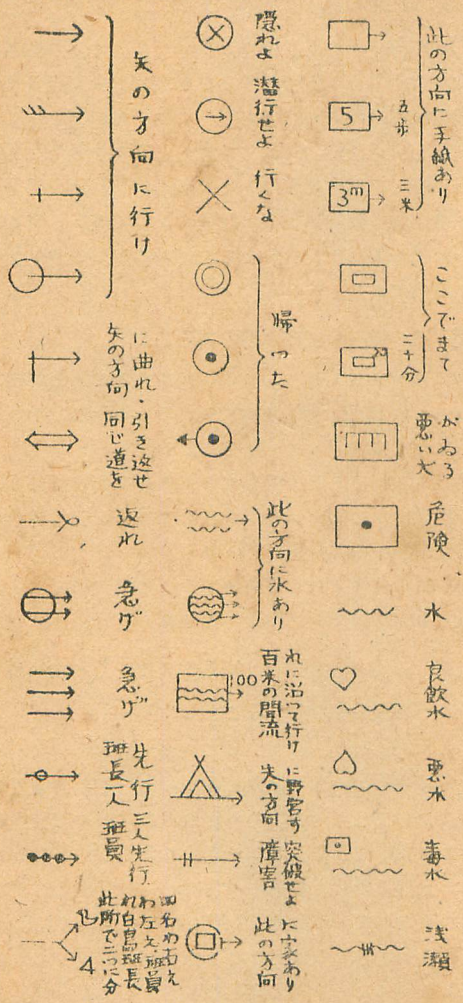
（追跡おするためにわ先づ追跡サインお知る。追跡實施にわ注意力、觀察力が養われる。若し不注意から一つの追跡サインお見落したなら正しい追跡わ出來ない。

追跡に代えての物品觀察わキムスゲームである。これわインドで一英國人がキムと云う名前のインド人少年に注意力、觀察力、記憶力お養成するために考案された方法である。

追跡サインの一


左の図わ「此の道」又わ「此の方向に進め」おあらわす
目的地遠し
目的地近し
目的地近し
注意
危険
此の道に非ず
帰つた
立ち去る
助けてくれ
此の方向3歩に通信あり
野営地に適んあり
よき野営地なり

追跡サインの二（繪文字）



こゝに揭げた追跡サインわ、大體世界中のB・S共通のもので、我國内のB・Sわ何れもこれお用いている。併しこれわ追跡サインの基準的なものでもあるから、各隊又わ各班がこの他に其の隊なりその班なりで、他の隊や他の班にわ判らない獨自の暗號となるものお考案して用いることもある。それわ、自分の隊なり班なりの結合お强め同志愛の精神、班意識等お强調することゝなる。そしてこの事わ彼等の徒黨本能と秘密本能お利用して興味お以てスカウテイングにいそしまることになるものである。

物品觀察がゲームに考案されているように、追跡もゲームとして訓練される

（二） スカウトペース（單歩四十歩宛）にて十五分間に二粁お行くこと。

（スカウトペースわ初め單歩お速足で進み、次の單歩四十歩お駈足で進む、これお繰返して二粁行くことである。然し實用的にわ登り坂でわ必しも四十歩お固定せねばならぬことわない。三十歩駈足三十歩速足としてこれお繰り返してもよい。又少年の體力に應じ歩數お少し減じてもよい。要わ同歩數お交互に繰返すことである。これに熟練すると所要した時間により距離の測定が出來、距離によつて時間の判斷が出來る。そして使いに出す人にも、使いする人にも時間的に或わ距離的に目當てが出來て便利である。

（三） 簡單な地形圖お讀み且つ磁針お正確に讀み得ること

（地圖お讀むにわ地圖に記された符號お知る。簡單な假想の地形圖お作つてそれにより箱庭式に模型お作ると各符號お覺えるに便利である。これわ個人ゲームにも班ゲームにも出來る。

羅針盤の磁針お正確に讀むことわ方位お知る上の最重要事であり、磁差又わ偏差により相違することも知つているべきである。方位お覺えるにもゲームや劇化してやると一層興味おひく。

道お行く者わ自分の居る位置と行く方角お知ることが大切である。社會生活（人生行路）も亦同じであることおも知る）

（四） 小刀、鉈及び斧の正しい使い方お知り、簡易作業に依る木工作品一箇以上お作り、尙衣服の小破損お修理し得ること

（小刀、鉈、斧わそれぞれの使途がある。それわ祖先がその生活の體驗から必要によつてそれぞれ工夫して創作したもので、その使途及使用法、手入の仕方等扱方お正しくする。その使途、手入等の取扱方が惡ければ品そのものも破損して使用法おあやまるし使用不能となるし正しい利器も恐ろしい兇器となる。衣服の小修理わ一般常識として知つているべきで、それお知つていれば他人の手お煩わさずにすむ。ボタン、ホツクのとれたのや、小さなほころびおそのまゝ放置しているのわスカウトの身だしなみでない。例え簡易な木工にしてもものお生成する喜びお知ることゝ共に手技の練磨になり、物の價値、利用面、勤

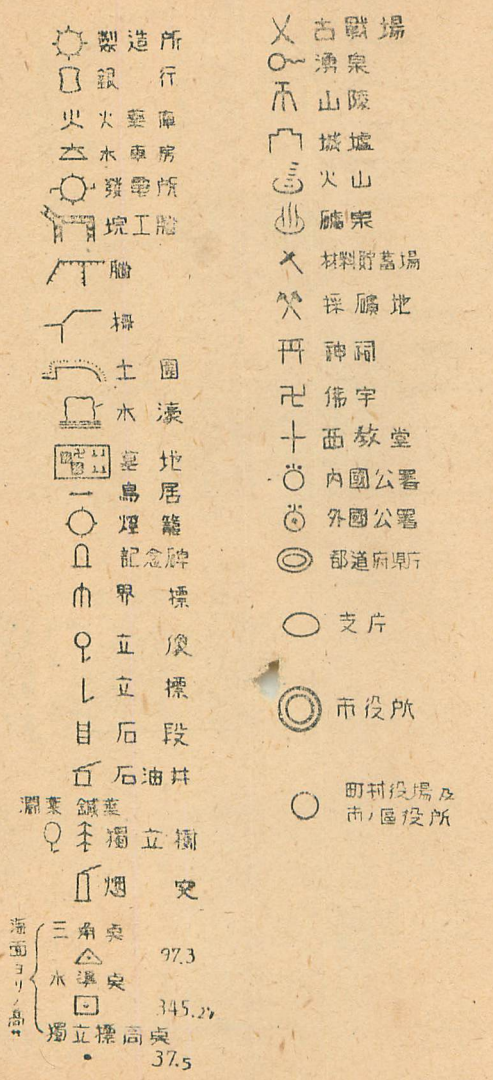
地圖符號 (1)

製造所
銀行
火藥庫
水車房
發電所
垸工船
船
柵
土圍
水濠
墓地
鳥居
煙籠
記念碑
界標
立像
立標
石段
石油井
濶葉鍼葉
獨立樹
烟突

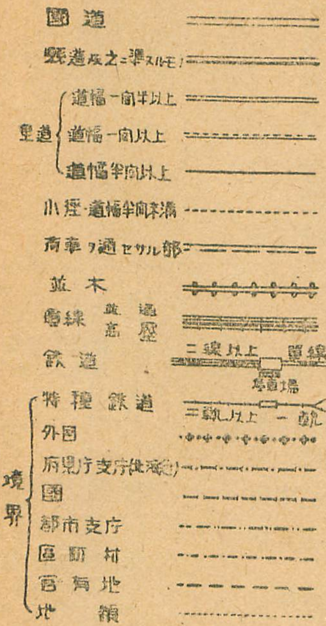
海面ヨリノ高サ
三角点 97.3
水準点 345.27
獨立標高点 37.5

古戰場
湧泉
山陵
城壚
火山
礦泉
材料貯蓄場
採礦地
神祠
佛宇
西教堂
内國公署
外國公署
都道府県庁
支庁
市役所
町村役場及市ノ區役所

學校
病院
避病院及隔離病舍
警察署
裁判所
刑務所
税關
税務監督局及税務
営林署
專売局同支局及同製造所
郵便電信(電話)ヲ兼ル局
郵便局
電信局
電話局
測候所

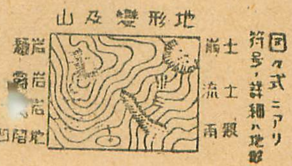


地圖符號 (2)

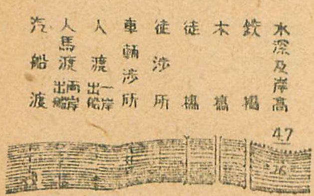


國道
縣道及之ニ準スルモノ
里道
道幅一間半以上
道幅一間以上
道幅半間以上
小徑・道幅半間未滿
荷車ヲ通セサル部
並木
電線 普通 高壓
鐵道 二線以上 單線 停車場
特種鐵道 二軌以上 一軌
境界
外國
府県庁支庁(北海道)
國
郡市支庁
區町村
官有地
地類

停船所
商港
警報標
浮標(無燈)
固定標(無燈)
燈台
無線電信電柱
果園
茶畑
桑畑
沼田
水田
乾田
荒地
樹林
棕櫚科
竹林
樹林 鍼葉
樹林 濶葉
草地



山及變形地
崖
岩
凹陷地
崩土
流土
雨裂
圖々式ニアリ
符号ノ詳細ハ地形



汽船渡
人馬渡 出両岸 船備
人渡 出一岸 船
車輛渉所
徒渉所
徒橋
木橋
鉄橋
水深及岸高
47
26

勞の喜び、閑時の有用化お體得する）

（五）野外に於てマッチ二本以内にて火お焚き付けること、及び野外炊事おなし、簡單な副食物お作り得ること

（火お焚く場所、風の方向、焚き付けよい物質及付けよい方法等に注意と工夫お要する。副食物お作るにわ材料の撰擇、費用、取扱方、調整方、外見、味覺料理方法等考案と工夫がいる）

（六）隊長の指示による道順にて十粁内外のハイキング（簡易測量、暗號追跡お含む）お二回以上行い、其の報告書お提出すること（内一回わ班ハイキングたること）

（スカウトのハイキングわ平常修練したスカウテイングの綜合試練場であり、環境の變化、自然現象の變化等によつて新しい修練おする道場である。報告書お作つて提出することわ事務の訓練ともなり、本人のよき記錄として後日追憶の種となる）

（七）卒倒、創傷、打撲傷、火傷、湯傷、凍傷、咬傷、螫傷、鼻血、眼の塵、腹痛及び中毒の場合に應ずる救急法お知り、止血法、繃帶法及び人工呼吸法お實施し得ること、且つ火災、震災及び水災の場合に於ける避難法お知ること。

（總ての手當わ「醫者の來るまで」の應急手當程度である。これわその術の上手下手よりもその取扱方により親切さお體驗する方が重要である。その上術が上手であればそれに越したことわない。當項目の體得わ日々の善行おする上に最もよい方法である）

（八）片假名手旗信號お一分間二十字以上發受し得ること

（信號わ共同一致の最もよく表現されるもの丶一つである。これもその技より精神お重要する。信號、暗號、合圖わ眼で視取るもの——視號信號。耳で聽取するもの——音響信號——がありこの手旗わ視號信號の一つである。お互が豫め定められた、若くわ定めた符號によつてその意思お通ずるのだから、共同觀念がなければこれわ出來ない。

この信號は共同動作により共同精神お養うと共に視覺又わ聽覺等感覺の練磨であり、注意力、記臆力、觀察力、應用力お養うものである）

（九） 電氣に關する簡單な知識お有し電氣器具の取扱法及び修理法お知ること

（文明の利器電氣に關する初歩的知識お有つ即ち電流、電壓、抵抗、電力わどんなものか、その相互關係の法則お知り、直流、交流の理論とその特質お知り、電氣器具の取扱法と修繕法お知ることわ近代生活お營む者の常識である。フユーズ（安全溶解線）の效用と取扱上注意お知り、電線の接續法等も熟知することになる）

以下當考査の實際として一つの標準お記す（これわ他の考査項目實施の要領に一つの形式お示すものである。）

先づ知識の範圍お質問の形式で列擧して見よう。

1. 電氣わどこにあるか
2. 電氣わどんな性質お持つか
3. 電氣の導體、不導體とわ何か
4. 電球の構造及それがともる理由わどうか
5. 電熱器の原理わ如何
6. 電磁石とわどうゆうものか
7. 漏電とわどうゆうことか、それおどう防ぐか
8. 雷の原因と雷に逢つた時の注意わどうか、——附、避雷針
9. ワット（記號W以下括弧内わ記號）ボルト（V）、アンペア Amp、とわどんなことか
10. スイツチ、ソケツト、プラグ、コード、とわどんなものか、又その用途わ如何
11. フユーズわ何のためにあるか
12. 豆電球や、220V 用の電球お100V の電燈線につないだらどうか

以上の 12 の問題に簡單な說明おつけると

1. 電燈線、動力線、高壓線などの針金の中、又空氣の小さな粒子の中にも電氣がある。地面の中にも、人間や動物のからだの中にもあり、「しびれえ」や「電氣うなぎ」など強い電氣おもつものもある。かみなり（雷）もこの電氣によつておこる現像である。
2. 電氣わ條件によつて光や熱や音お出す。又機械お動かす力にもなる。

電氣のつたわる速さわ 1 秒間に 300,000 キロメートルである。
三十萬キロメートル毎秒とわ地球の赤道の上お 1 秒間に 7 回半廻る速さである。
電氣にわすつぱい味がある。これわ乾電池などでためして見ることが出來る。(陽極と陰極との線お同時に舌の上にのせると味がわかる)

3. 金屬わ皆よく電氣おつたえるが、銀について銅が最もよくつたえる。このように電氣おつたえる性質のあるものお導體という。
水や炭素、人體なども導體である。
これに反し電氣おつたえない性質のものお不導體とゆう、乾いた布、竹、木、ゴム、ガラス、陶器、エボナイト、空氣などわ不導體である。

4. 電球の中わ眞空か又不燃性のガスでつめてあり、タングステン線が燃えきらないようにしてある。
電球のタングステン線の樣な細い線に多量の電氣が通ると無理が出來て光が出る。この光お應用したのが電燈である。

5. 電熱器のニクロム線わ電氣お通しにくい性質がある。これに電氣お通すと無理が出來て熱が起こる。これお利用するのが電熱器である。

6. 鐵の棒に電線(絶緣したもの)お幾重にも巻きつけてその電線に電氣お通じると鐵の棒わ磁力の力ができる。電氣お通じるのおやめると磁力がなくなる。電鈴わこの原理お應用したものである。

7. 電氣お通じて居る電線から電氣の逃げることお漏電とゆう。
電線お電柱の上や家の內に張るとき「碍子」という磁器製のものでとめる。それでも電線の被覆(絶緣物)が破れたり水でぬれたりすると漏電のおそれがある。

8. 雷とわ雲に蓄積した電氣と地上の電氣とが放電する現像である、地上から高く空中に抜き出たのもわ地面の電氣お放電し易いから、電柱や、高い立木や建物の下に居たりするのわ危險である。洋傘おさしているのも近い雷にわ危險である。
地上の電氣お少しずつ放散させて、たとえ強い電氣ができた時でもその先きから逃がすように工夫したものが避雷針である。
避雷針の高さお半徑とした圓形內の地上わまず安全である。

9. 「ワット」とわ電氣おあらわす單位、「ボルト」とわ電氣お流し出す壓力(電氣)の單位、「アンペア」とわ電氣の强さの單位。

10. スイツチわ電流お止めたり通したりするもの、ソケツトわ電球お取りつけるもの、プラグわ電線おつなぐ所に用ゆるもの、これらのものの電氣のつながる場所の觸れ方が惡いと熱お起して危險である。
11. 熱にあうと熔け易い金屬の合金の針金おフユーズ線とゆう、その線の負擔力不相應な强い電氣が通れば切れて電氣の危險お防ぐ。
12. 豆電球のような弱い電氣用のものに普通の 100V 電壓がかゝると切れる。200V 用のような電球に 100V の電壓の電氣お通すと光が弱くて暗い。(當項中野忠八氏考案)

(十) 火災豫防、交通安全及び公衆衞生の法則に就て各五種以上の實例お擧げ說明すること

(火わ人類生活上最も重要なものの一つで親しむべきものだが一朝大事となる恐ろしいものである。近代生活わ交通機關の發達から距離お縮め、時間の空費お防いだが、その錯綜と頻繁とわ幾多の事故お招く。眼に見えない大敵わ病魔であつてその跳梁に任せることわ人類の敗北である。

この何れもが人々の注意と不注意によつて防止も出來罹災もする。「無理おしないこと」と「注意お怠らないこと」これが安全の二大原則である。

【法則の例示】

イ、火災豫防

1. 火お焚く近かくに枯草や紙くづ鉋くづ等燃え易いもの又わ油、ガソリン、アルコール、セルロイド等引火し易いものお置かないこと。從つてそう云うものの在る近かくで火お焚かぬこと。
2. かまど、こんろ、火鉢等わ火のあるときわ水お入れた鐵びん、鍋釜の類おかけておくこと。
3. 外出するとき又わ就寢のときわ火わ必ず消すこと。
4. 外出又わ就寢前必ず火氣使用場お點檢して處置の完全さおたしかめること。
5. 使用時外わ電氣わ必ずスイツチお切り、ガスわ開閉栓お閉じること。
6. 路上其他屋外で火のついた「たばこ」の吸がらお見付けたら必ず

消すこと。

7. 焚火わ決して放任せぬこと。

9. 萬一に備えて消火用水お準備しておくこと。

ロ、交通安全

1. 交通道徳お嚴守すること。

2. 左側通行、そして車道歩道の區別ある道わその區別に從いその區別なき道でわ、緩行者わ進行方向に向つて左外側お行くこと。

3. 横斷歩道の定めある所わ横斷歩道外で横斷せぬこと。

4. 踏切お通行するときわ必ず一度停止して先づ右お見、次で左お見て危險のないことお見届けてから通行すること。

5. 路上に危險物お捨てぬこと、交通防害となる物お置いたり路上で遊戲おせぬこと。

6. 路上の危險物又わ防害となるものお見付けたときわ取り除くこと自分の力で取り除くことの出來ぬときわ、危險の標示おして置いてから他に急報すること。

7. 走行車で走行車お追ひ越すときわ必ず警笛（又わベル）お鳴してから相手の右側お通過すること。

8. 一列乘車等の場合先着順お守ること。

ハ、公衆衞生

1. 傳染病名とその傳染の經路お知り、豫防注射の行われるとき必ずその注射お受けること。

2. 腐敗物、汚物、塵芥等わ燒却又わ埋沒し或わ指定の容器（必ず蓋のあるもの）に入れ、路上、空地等に放棄しないこと。

3. 蠅、うじ、蚊、鼠、のみ、しらみ、だに等お驅除し且つその發生お防ぐこと。

4. たん、つば、大小便等お道路上等にしないこと。

5. 感冒の場所人前え又わ人なかに出るときわマスクおかけること。

6. 共同で使用する場合お不潔にしないこと。

以上などであるが要わ注意にある、即ち一人の不注意が萬人の迷惑になるのである。

（十一） 節約或わ勤勞に依る貯金五拾圓以上お有すること

（貨幣制度の下でわ何んと云つても金錢の力わ無視出來ない。自分のためにも、人のためにも必ず金錢お必要とする場合が起る。それに備えて平常貯金お持つていることわ强い。その金錢も他人より貰うよりも、自らの勤勞で得た報酬や、使うべき金額お節約して貯めた金錢の方が一層價値が高い、そして貯蓄の大切さお知ると共に金錢の正しい使い方お知る）

一級スカウト考査科目

一級スカウトの考査科目わ次に記載する通りであつて、これわ内容的に見て、初級及二級に於てスカウトが體得した各項目が高度化されたものである。即ち初級及び二級に於てスカウトが知り得たことわスカウトの基本であつて、一級に於てそれお擴張發展したもの、或程度の仕上げおかけたものである。そしてこの考査方法わ各地方聯盟にわそれぞれ考査委員が置かれ、その考査委員の手に依つて行われるから、受驗者わその旨お所屬隊長に申出　隊長がその受驗者に受驗能力ありと認めると考査委員に連絡して受驗の出來るようにする。

一級スカウト章

二級スカウトとして三ケ月以上の生活お經て次の考査に合格した者お一級スカウトとする。

（B・Sの考査受驗資格に初級わ假入隊の一ケ月後、二級わ初級B・Sとして二ケ月以上の生活お經ることとあり、今又一級に於ても二級B・Sとして三ケ月以上の生活お經ることお條件としている。ことわ、B・S教育と云うものが唯單に理論や方法お教えるものでなく、體驗、實踐と云う點に重きお置いているから、その學び得たことお實踐し、體驗お積んで眞に身お以て會得するにわ勿くも規定された最少限度の期間わ、その生活おしなければ出來ないと云うことおねらつているものである。各級殊に初級二級の考査科目お詰込主義暗記主義的に行えば時間わ最少限度の規定期間よりもつと早く終るであらう。それお斯様に規定したことにわ、前述のような深い考慮が加えられていることお了得され度い）

（一） 五十米以上泳ぎ得ること。但し體質上水泳お有害と認められた者わ回路約三十粁の路線お十時間以内に徒歩にて經過し、其の途中の主要事項に就て報告書お其の時間内に提出すること

初級、二級に於てわ陸上生活おねらつているが、一級になつて初めて水上生活に觸れ、當項目に於て水泳；次に十一項に於てボートによる舟行のことが考査に上ぼる。併し水泳わ體質により徒歩三十粁行程に代替され、ボートの舟行も徒歩旅行であつてよいことになつている。この點水上生活お輕視した感じおいだくかも知れないが、班生活に於てわ班競技又わ野營等に於て水泳や操舟練習機會が多く、殊に海濱河川湖沼近くの隊等わその機會に惠まれている。因て水泳、操舟わ共に技能章制度に於てこれお技能考査の對照とし、その合格者に水泳章又わ操舟章が與えられることになる）

（二） 二級スカウトとして得た救急法お相當材料お用いて假想患者に對し實施し得ること、外に火災、地震、溺水、裂氷、感電、瓦斯漏れ及び狂犬に對する應急處置及び患者運搬法お實施し得ること

（大體實科と理論であるが、實施者の心構えも點數の大きな面お占める）

（三） モールス信號お電鍵若くは單旗お用いて一分間に十五字以上發受し得ること

（電信局の電信技術員の電鍵發受數わ 85 字位が一人前で最高記錄者わ、140 字まで發受出來る）

（四） 野外にて、或わ野外に準ずる器材お用い、米及小麥粉に依る主食各一種以上、並びに副食物五種以上お作り、尙一般榮養知識お有すること

（米（或わ麥其他雜穀お加えてもよし）お飯盒で炊くことが直ぐ想起されるが、釜、鍋なんでもよい、かまどの作り方使用方法もいろいろあるが、家庭で一般使う既成かまどでないことお望む、小麥粉の場合水とん式汁物もあるし、パンにする場　もあろう、副食物わ材料、調整方法、調味料の相異により千差萬別であるが、野外理料お立場とするから調理に餘り時間お要するものわ向かない、味覺と視覺一見榮に氣おとられてカロリー計算の合理的でないものや、薪炭お多量に使

過ぎるもの、炊さん方法の不適當なもの、材料お粗末にするものあと始末の良くないもの等わ減點の要素である）

（五）班野營（合同野營の際のものも含む）三夜以上、二名以上の移動野營三夜以上の經驗お有し、各種野營の正しき方法お知ること

（野營にわ一定ケ所に設營したまゝ數日後の撤營まで動かない固定野營と、次々に設營地お代えてゆく移動野營の二種がある。この種の野營經驗合計六夜以上完全に出來れば立派な野營家である。固定でも移動わ勿論假令一夜の野營でも野營生活にわ、寢る所、炊事おする所、食事する所、便所、ゴミ捨て場が必要である。そして撤營にわそれ等の場所お復舊し清掃して只感謝だけお殘す。野營中及撤營の時火氣わ殊に注意して、火の災いお招かぬこと。

野營おするにわ計畫お立てそれおよく檢討して總てについて手ぬかりのないようにする。設營地わ十分調べること。よい水のない所、傳染病流行地、食糧薪炭の補給不便な所、一般人の出入又わ通行の頻繁な所、天候其他災危の場合他に連絡の六ケ敷い所等わ不適當地である）

（六）五万分の一地形圖お正しく讀み、常用の地圖記號お現示し得ると同時に簡單な測量圖（平面圖）及び見取圖（透視圖）お作製し、磁針に依らずに方位お發見し、又各時季に於ける星座三以上お知ること

（地圖お正しく讀むことと、方位お發見することわ社會生活上必要事である。隊本部お中心に測量圖及び見取圖お製作することも應わしい教材である。磁針なしで方位お發見するにわ太陽の出ているときわ時計による。晴れた夜わ北極星やオライン星座（この星座わ夏季わ見えない）等で出來ること、其の他樹木の切株の年輪等でも方位の大體わ判る。北極星お發見するにわ大熊座小熊座お知れば直ぐ判るし、それお中心に四季それぞれにこの兩星座附近にある星座の名お知ることによつて、當項目後段の考査わ比較的易しい、そして星にわいろいろの傳說が伴つているのが多いから興味お以て星座お知る）

（七）數長さ、重さ、距離、高さ、面積及び體積を推測し、二五%以下の誤差にて報告し得ること

（考査委員が指定する「もの」の數、長さ、距離、高さ、面積及び體

積お推測させて、その「もの」お調べ——或わ考査委員わ豫め調べて知つている——實際のものと受考査者の推測とがその二五%以下の誤差ならば合格する——要するに正しい目分量おなし得る能力お有つことである）

（八） 木工及び金工製作品三ケ以上お製作すること

（木工わ竹工又わ藁工お以て代用も出來る。金工も非鐵金屬であつてもよろしい。要するそれ等の材料おいかに生し、いかに工夫し、いかに細工してその製作物の實用面に適合するか否かの判定が出來得ればよい）

（九） 鳥類六種、樹木十種、昆虫十種に就て研究し、其の名稱、種類、性質、用途及び人間生活との關係お說明すること

（自然研究である。人間生活わこれらのものと大きな連がりお有つ。日常幸福おも齎せられるが害お與えられることもある。出題わ簡單のようでも相當不斷の研究お要する問題でこれも奥行が深い）

（十） 遲くとも一名以上の入隊者お紹介し初級スカウトたらしめること

（自分がスカウトたるの名譽お擔つたのだから、他の少年にも同じ名譽お擔わせ度い、と云う念願から入隊候補お連れて來て、その少年が初級スカウトになるように協力してやる）

（十一） 單獨或わ一名のスカウトお伴ひ二日以上に亘り徒歩又わボートの場合にわ往復十二粁以上、自轉車或わ馬の場合にわ往復二十五粁以上お旅行しその旅行記お作り提出すること

（スカウトの行脚である。漫然と行つて歸るのでわない。その行脚中彼わ何おしたか、それにより彼が一級スカウトとなるにふさわしいか否かわ、彼自らの旅行記が證明する）

（十二） 節約或わ勤勞に依る貯金百圓以上お有すること

（二級でわ五十圓以上の貯金お有つことになつているから一級でわ百圓以上有つ、その他意味わ二級のときと同じである）

第三章　技能章制度

閑時の有用化と、餘剰勢力の善用、能力の育成と、隠れた性能の發見職業の芽生の養成、高階級スカウト資格にわ責任科目があるが、一級スカウト以下わ隨意・考査の方法・部外者に技術指導お依頼する場合の注意・技能章種類の例示・技能章登録と考査内容の例示

少年達お善導するにわ彼等の閑時間お有用化し餘剰勢力お善用することが重要であることわよく人の知る處である。然しだからと云つて彼等自らなそうとする欲求お起し得ない作業や仕事で彼等お束縛することわ效果がない。彼等自身深い興味と愛着お有ち、「そのことの出來る」と云うほこりと「あれまでやれるようになり度い」と云うあこがれお有つ作業なり仕事なりお彼等が持つたとき「閑居して不善おなす」と云われる閑時間わ立派に有用化されいたづらおする勢力―餘剰勢力わ善用される。從つてよからぬことおする暇も、よからぬ人や、よからぬ場所、よからぬ遊び等に近づく機會もないから不良化される餘地がなくなる。

この法則おスカウテイングに巧に仕込んだのが「技能章」制度でありB・S教育推進のプログラムの一つである。この技能章制度により本人の技術的能力お伸すばかりでなく、これにより隠れた性能お發見し、且つ抽き出すことも出來る。そして彼自身の將來社會に役立つ職業の芽お養うことにもなるものである。

この制度わ云わば一種の勞作教育であるが、その觀點わ彼等お興味に引き入れて技術修得に沒入させ、技術の修練お通して人格お練磨涵養するもので「術によつて心お磨き、心によつて術お練る」修道の極致おゆくものでもある。そして職業教育お副產物的になし得る妙味も附隨する。併しこれわ飽くまで副產物的所產であつて主目的でわない。

技能章制度に採り入れられた職種別、作業別の名稱わ大體七八十種にのぼる見込で、その内容わ目下檢討されている（昭和二十四年三月現在）

第二次世界大戰前我國のB・Sでは六十五種目お制定していたし、アメリカのB・Sわ現在百二十種類位、イギリスのB・Sわ約七十種類位お制定している。要するに社會全般に亙る職業又わ趣味としての技術面に關するものがそれぞれ採用されていて、何れも實習により修得することになつている。

技能章お得るためにわ、彼等のそれを「望む」と云う意欲が根本であるから、どれお望もうとそれわ彼等の自由であつて選擇科目としてあり、一級スカウトまでわ進級上の責任科目とわなつていない。唯高階級例えば戰前の我國の隼スカウトのようなもの（再建B・Sに於ても嘸て斯様な高階級スカウトが設けられる筈である）の資格にわ救急章、野營章、信號章其他指定された總數二十種目の中、前三種お必ず含む合計七種お有していなければならぬことに決められていた。これわそのクラスのスカウト常識として、その誰しもが具備すべきものと云う考えから決められていたものである。

自由選擇科目であるばかりか一級スカウトまでわ進級資格になつていないが、實際にわ彼等自身スカウトの義務の本質お知り、且つ技能章制度お知れば誰れでもその義務およりよく果すために、このうちの何かお取ろうとする意欲が自發的に湧き出て來て、その技能お修得し考査お經てその着衣の左腕に技能章お付け、そのバッヂの示すことの御役に立ち得る者だとの表示おするに至る。

この技能章お取るにわ、豫め定められて公表されている各種目の考査内容に、スカウト自身受驗の自信お有つたものお受驗させ、合格すればその種目の技能章が與えられる。受驗の方法わ本人から隊長にその旨申出て、隊長もその資格ありと認めるか、時にわ本人の修得程度お隊長が知つて受驗方お勸めるかして受驗させる。

試驗わ考査委員（一級スカウトの進級考査のように）の手で行われる。

スカウトが目的の技能章お取るためにその示されている内容お實習修練す

るにわ班クラブ室で各班員が協力して行うこともあり（この意味に於ても彼等に一定のクラブ室 ―集おもたせることが必要である）或わ野営其の他野外で同様行われることもある。種目のあるものに就てわ隊長が選定委嘱してくれた特定の人の下で習得することもあり、スカウトの自宅で行うこともある。何れの場合でも班長やその技能章の既得者わ後進者の修練に協力、援助お與える。(隊長わその修行するスカウトお常に勇氣づける義務がある)

技能によつてわその途の先達者又わ職業として優れたその技能お有つ人に付いて指導お受ける場合も多いから、隊長わ隊のスカウトがその修行希望お申出たとき、それが自分の力に及ばないときわよき指導者として技術的にも人格的にも信用の置ける職業人お臨時に委嘱してその指導お受けられるように斡旋、協力する。これわよき隊長の義務である。この場合特に注意すべきことわ、スカウト教育わ人と人との接觸による人格の陶冶に在るのだから、例えその技術に長じた人でも思想品性の好ましくない者わ避けることである。

スカウトわ初め一種目の技能章お得るとこれに満足せず更に他の種目のものお得ようと努力する。その努力が勢ひ彼等の閑時間お有用化し、餘剰勢力の善用となるのである。

技能章の形式と、その考査の内容とお、過去の我國のB・Sで行つていたものお類例として次に掲載して置くから當制度お知る參考とせられ度い。

【技能章種類の例示】

案内章	通譯章	信號章	電信章	無電章
電氣章	機關章	事務章	救急章	個人衞生章
公衆衞生章	洗濯章	自轉車章	自動車章	消防章
野營章	天文章	測候章	測量章	製圖章
印刷章	寫眞章	繪畫章	彫刻章	音樂章
體育章	騎乘章	スキー章	水泳章	水難救助章
漕艇章	炊事章	手技章	裁縫章	紡績章
木工章	工作章	建築章	石工章	金工章
陶石章	革細工章	籠造章	竹細工章	農事章

家蓄章　養禽章　養蠶章　製茶章　養蜂章
養魚章　漁撈章　園藝章　博物章　鳥類保護章

【技能章の型錄と考査内容の例示】

【案内章】 1. 隊本部を中心として附近の詳細なる地理を知ること。

案内章

その中に、消防署、警察署、病院、薬店、公設市場、市、區役所、町村役場、學校、郵便局、電信局、電話局、鐵道、電車道、乘合自動車道、食料品店、主なる工場、自動車庫、自轉車修理屋等を含む。

（人口二萬以下に於ては半徑三キロ人口二萬以上五十萬までは半徑二キロ、人口五十萬以上にては半徑一キロ）

2. 附近四キロ以内の地ならば未知の人を何處えでも案内し得ること。附近の主なる町村及び其地方の主なる市に至る大體の道順を示し得ること。

3. 附近の名所、舊跡について大體の知識を有すること。

【救急章】 1. 下記に對する處置法を知ること。

救急章

卒倒者、溺死者、感電者、狂犬、毒蛇に咬まれた者。

2. 頭、足、首、手の繃帶法を知ること。
3. 身體各部の動脈靜脈出血を止むる法を知ること。
4. 傷に黴菌の入らぬ樣ガーゼを用いる法を知ること。
5. 腕或は足の骨折に副木を副える法を知ること。
6. 人工呼吸法を知ること。
7. 患者運搬法を心得居ること。

【自轉車】 1. 二十粁を二時間に走り得ること。

自轉車章

2. パンク其他簡單なる故障を修理し得ること。
3. 自轉車の構造を知り其の分解組立をなし得ること。
4. 地圖および視察の報告、口述の傳令をもなし得ること。

【信號章】 1. 片假名手旗信號を一分間二十字、モールス信號符字を一分間四十五字の速度にて發信又は受信し得ること。

2. 發火及音響によりモールス信號をなし得ること。

信號章

3. スカウト規定の暗號お各種の方法お以て自由になし得ること。

4. 船舶の舷燈、曳船信號燈お知ること。

5. 汽車の發着停止の信號お知ること。

【炊事章】 1. 各種の道具にて或わ道具なしにて飯お炊き得ること

2. 下記食品お作り得ること。

炊事章

五目飯、海苔巻、シチユウ、ライスカレー、豚、魚、鳥肉料理、茶、コーヒー、コンア、甘酒、葛湯、汁粉、雜煮等。

3. 食物の榮養素、消化の良否、配合調理による消化の難易に就て知ること。

4. 野營に於ける一班一週間の獻立表お作ること。

5. 水の濾過法、滅菌法お知ること。

6. 食物の保存法お知ること。

【天文章】 1. 太陽系の組織お知ること。

天文章

2. 地球其他の惑星及衞生の運動の大體と其一般智識お有すること。

3. 日蝕、月蝕、變光星、太陽黑點及潮の干滿等に就て知ること。

4 十以上の星座、北極星の所在及其の發見法お知ること。

5. 恒星、天の河の性質お知ること。

6. 本邦現用曆の中閏年お設けたる理由お知ること。

【野營章】 1. 天幕生活の經驗二十夜以上お有すること。

野營章

2. 天幕お張るに就て次の事項お知ること。

場所の撰定、便所の作り方、汚物塵芥の處分法、風雨に對する處置、防寒防濕法。

3. 各種天幕の作り方と其特徵用途、張方仕舞方お知ること。

4 飯盒炊事及簡單なる副食物の調理おなし得ること。

5. 筵及小屋掛の造り方お知ること。

農業章

【農業章】 1. 田畑お耕し米麥の栽培おなし間作おなし得る所にてわ間作おなし、灌漑排水の方法等お實驗により知ること。

2. 農耕機械、器具の一般的智識お有すること。

3. 堆肥の作り方お知り、動植物性肥料及化學肥料の識別おなし其の效用お知ること。

4. 肥料の三要素お知り各要素の植物に及ぼす影響お理解すること。

5. 米麥につき各季節の農事課程に習熟すること。

6. 米麥に發せる病虫害驅除豫防法お知ること。

養禽章

【養禽章】 1. 孵化法及孵卵器の使用法お知ること。

2. 衞生に適する家禽舍、鳥籠運動場お作り得ること。

3. 育雛、給餌、屠殺の實驗お有すること。

4. 鳥及種卵、食卵お市場に出すため荷造おなし得ること。

5. 鷄の種類八種（食用、卵用、愛玩用等の）及特徵お知ること。

6. 養禽又わ家鴨又わ七面鳥等の飼養法の大要お知ること。

木工章

【木工章】 1. 木材十種以上お識別し其の特質と一般用途お知ること。

2. 鋸、のみ、鉋、小刀の用法に熟し之が手入法お知ること。

3. 手挽製材法お知ること。

4. 木材の接合法お知ること。

5. 簡單なる木工日用品お製作すること。

6. 塗料（ニス、漆、エナメル）着色、燒着の原理お知り、簡單なる塗工、着色法、燒付おなし得ること。

手技章

【手技章】 1. 小刀、のみ等の刃付研き方お知ること。

2. 簡單なる彫刻おなし又わ印章お刻し得ること。

3. 簡單なる製作物の模型圖お畫き得ること

第四章　スカウテイング實施要領

スカウテイングの基礎概念・六要素・訓練要目・三大制度・指導綱目・仕組の根底・訓育の形式・指導意圖お肚にだけ置く・ベーデンパウエル卿の指導實例・キムの話とその暗示・人殺お見つけた話とそのゲーム化。

【スカウテイングの基礎概念】　スカウテイングお行うにわ

一、少年があること

二、指導者があること

三、資材（場所お含む）のあること

四、プログラム（教育價値と興味があり奉仕の出來る）があること

五、組織があること

六、費用（金錢）のあること

以上六要素お必要とし、これによつて行う訓練の要目わ

一、人　　格

二、健　　康

三、技　　能

四、奉　仕　心

の四つの養成にある。

能力おもち（即ち有爲の人となる）他の爲に盡すことお「スカウト精神」とし、その精神お常に顯現し實踐することお「スカウトの義務」とし、從つてスカウトの目的わ「よき公民になる」ことであるから、その理想お達成するにわ、この訓練要目の一項も欠くことわ出來ない。

この訓練要目お達成するために

一、班　　制

二、進級制度

三、技能章制度

と云う訓育方法お有ち、その指導綱目に次の六部門お盛り込んでいるのである。

一、森林生活（ウッドクラフト）

二、野營（キヤムピング）

三、行脚（ハイキング）

四、手技（ハンドクラフト）

五、信號（シグナリング）

六、急救法（フアストエード）

この六部門の指導訓練の內容お、その訓育方法の正しい運營によつて、少年自身、その興味と必要によつて體得し、教育理想お實現することの出來るように企畫立案されたのがスカウテイングである。

【仕組の根底】 スカウテイングわそれ自體が一つのゲームである。それわ彼等少年がその欲求する興味と必要に應じて訓練推進のプログラムお彼等自身が作るからだ。と、ベーデンパウエル卿わ云うている。B・S教育わ自發教育であり、個性教育であるから、彼等自身、自己能力の啓發培養おするように導いてゆく。大人の立場に於てこれわ彼等のためになることだ、これわ興味お持つものだと信じても、時にわ彼等に無興味な甚しきわ苦痛お伴う勞役的なものも出て來る。それが彼等自身のプランによれば、そのようなものわ採用しない。と云つて徒に放任して置くのでわない。常に訓練目標に向つて暗示お與えるとか、サゼツションお與えるとか、同情に發した嚴しい批判によつて正しきものお抽き出して、好ましくないものお是正してゆくのである。

さればこそスカウテイングわ訓練の全過程が少年の心理に合し、その欲求に應えて、常に新鮮な興味の連鎖と會得の喜びに浸らせながら彼等の心身お成育するように仕組まれているのである。

この仕組お無視して軍隊式命令と號令でスカウテイングお行うとするならば、切角のスカウテイングも單なる勞働的課業に陷つて愉快お忘れた苦役となり、少年達わそのグループからスカウテイングお締出してしまうであろう。

少年時代わ熱し易く冷め易い。隊長の怠りや行詰りわ彼等にわ直ぐ、然も強く響く。因て隊長自身不斷の熱意と努力お以てスカウテイングに精進しなければならない。

この教育方法が指導者と被指導者の魂のふれ合にまでならなければ、この教育の眼目である個成教育と生活指導わ完成されない。だから隊長わ不斷の研究と工夫によつて新鮮な興味と發展性と云うことお、十分考慮して全般の訓練スケジユールお立て、魅力お持たせて彼等お引き付けていかないと、彼等わスカウト生活に飽いて、そのグループから離れてしまう。

スカウテイングの創始者ベーデンパウエル卿わ實際に少年達お指導するに當り、常に教育環境と雰圍氣に留意し、その巧みなそして豐富な說話（營火物語——かゞり火のまどいの話　や深い意圖お抱藏するゲーム（スカウトゲーム）や或わ劇（スカウト劇）や唱歌（スカウトソング）にその導こうとする目的お托し、絕えず彼等に暗示お與えてその意圖する訓練お自然に實現させたり、或わ單的に訓練種目おゲーム化させてプレイさせ、それによつて意圖する訓練の實お擧げた。

パウエル卿の說話ぶり

このやり方わ少年達に、强いあこがれと大きな勵みと、新鮮な興味と、會得の悅びお與え、彼等わ嬉々として育成され、斯くて教育の最大目的お達成することが出來るのである。斯う云うやり方がスカウテイングわそれ自體一

つのゲームであると云う本質的證左であつて、このやり方お無視したならば、スカウテイング指導の成功わ覺束ない。

ベーデンパウエル卿の俊敏な頭腦と豐富な經驗と、深い人生觀と正しい世界觀、熖ゆるような人間愛と敬虔な信仰、固い信念等々お緯とし、心理學、教育學その他近代科學お經として編み出されたこのスカウテイングわ偉大な教育法でわあるが決して小六ケ敷いものでわない。これお所謂「使いこなす」能力わ多くの人々が持つている。それお使いこなし得ないのわその人の認識不足か、努力が足らないからだ。お互に勵むべきことである。

ベーデンパウエル卿が、說話や唱歌やゲームや劇お通して少年お愉快の境裡に置いて教育活動に導入したその事例わ、その著「スカウテイング・フオア・ボーイズ」お熟讀、翫味すればよく了解される。

即ち四つの訓練要目達成のため六つの指導綱目お縱橫に織込んで訓育するのに、說話に、劇に、唱歌に、ゲームに採り入れ或わその基礎的な個々の訓練お殆ど總て、時にわその全般的のものさえもゲーム化して施行している。故にスカウテイング・フオア・ボーイズの「かゞり火のつどいの話」のその二に、スカウト教育課程の概略でベーデンパウエル卿わ「その作業（註－訓練作業）の大部分わスカウトゲームお練習している間に、スカウトとしての經驗お踏みつゝ行われる試驗にパスするに十分な課程お終えれば一級或わ二級スカウトの徽章お授けられる（註－つまり進級が出來る）
と述べている。

前に述べた訓練要目と指導綱目とお把握してその意義に徹し、そしてこれお體得したものわ近代社會に於て、所謂文化生活お營むにそれだけ重厚な、そして意義深い生活お享有し——有意義な人生々活を送る。即ち文明社會に於てわ完全な生活お營み、未開地に於てわ其處に豐な生活お築き得る能力お有つものである。

訓練作業のゲーム化について更に一言するならば、信號法や結索法お唯單に實課として技術お會得させるための劃一的訓練——理論と實際と云うよう

な講義的詰込主義式な係統立つた訓練で少年お指導すれば、無味干燥でうるおいも興味もなく、從つて修練の喜びの度合も薄い。これおゲーム化して習得させたり、劇の仕ぐさに織込んで演じさせたりなどうるおいおもたせて、實際使用面お考慮し、工夫して自然と修練の出來るようにすると、少年達わ興味お持てこれお習得し、知らず識らずの間に熟達するだけでなく、これにより發起した修業の意欲わ一層强固のものとなつて發展し、單に技術としての修練おも厭わなくなる。そして精神的にも技術的にもそのことが、如何に社會生活に有用な關連お有つているかも了解する。

この指導方法の本質お實施するに當り、隊長わその深い意圖お唯自身の肚に置き、何食わぬ顔で少年達おその手段の中に沒入させるか、たかだか暗示——示唆お與える程度で彼等自身自然と悟り會得するようにすることが肝要である。「だから斯うしてわいけない」とか「だから斯うすべきだ」とか「故に云々」と云うような垂訓的、訓戒的な所謂說法的——お說的調わ採らぬことである。隊長わ彼等が自主的に身お以て、その正しい判斷能力お發揮することに協力すれば足りることお、ハッキリ認識すべきである。

ベーデンパウエル卿の實際訓練方法の事例おスカウテイング・フオア・ボーイズによつて二三次に擧げるから、我が指導者諸氏わよろしくこれによつて本訓練法のコツお會得して、大いに展開活用さた度い。

キム（かぢり火のまどいの話のその一記載）

*1）ルドヤード・キプリングの「キム」の話わB・Sの仕事お知らすにわ適當な一例である「キム」と云うのわ略名で本當わキムボール・オハラと云い、印度に於けるアイランド聯隊附の一兵曹の息子であつた。兩親わ彼の幼兒の折り亡くなり、彼わ印度に暮していた貧しい伯母の世話になつた。

遊び友達わみんな土人であつた。で、キムわその土地の言葉お話し、その風俗によく通じていた。當時印度お遍歷していた一人の老禮僧と親しくなつて、共に印度の北部お旅行した。或日偶然にも前にその父親が屬していた聯隊が行軍中であるのに出會つた。彼がそのキヤムプお訪ねた時、窃盜の嫌疑お受けて拘引されたが然し彼が所持していた身分證明書や、その他の書狀

に依つて父親との關係から、その聯隊が責任お以て彼お教育することになつた。

然しながら休日に外出が許可せられる時わ何日でも、印度服お纏つて、土人の一人となつてその群に這入つて行くのである。

やがて彼わ寶石、珍奇物の商人で又土人との取引で得る知識に依つて、政府情報局の一委員であつたラーガン氏と知り合になつた。

ラーガン氏わ、キムの土人の風俗習慣に對する特殊知識お認めて、政府事業即ち土人間に於ける一種の探偵に有益な働きお擧げるであろうと云うことお知つた。然し彼お雇う前に、先づ、いかに彼が勇敢で強い意志お持つているかお見る一、二の試驗おした。

*2) 彼の意志の强さお試驗するために催眠術に掛けようとした。卽ちキムの考えお、試驗者の意思に從わしめようとしたのであつた。强い心の所有者が弱い心の人々にこれお試みることわ出來る。彼の試驗法わ、先づ水瓶お投出して微塵に碎き、それから少年の頭に指お横えて、キムにその瓶が再び繕い直されたと想うように暗示した。然しそれわ失敗であつた。キムわその瓶の碎かれたのお見たので、繕われた事お信じなかつた。しかし彼わその瓶の繕われた幻お見たので一寸一度辛うじて試驗者に服しかけたのであつたが然しその幻わ直ちに消え去つた。

*3) 大抵の少年わ、心や眼お迷わせて、一問題にのみ固着し續ける事の出來ないものであるから、成年者わ容易にこれお催眠し得るのが普通である。

ラーガン氏わキムの强固な意志と物覺えのよいことお知つて、更に *4) 小さいことにも注意し記憶することお教えた。スカウトお教育するに當つても、これわ最も重要な點である。常に何處にあつても又何日の時にでも學び實行すべき事項である。ラーガン氏わこれお始めるに *5) 種々の寶石が充滿せる盆お彼に一分間ばかり見せた。そして布で被うてその寶石の數と種類とお尋ねた。最初キムわ二三種しか覺えていなかつたし、極めて正確に說述することも出來なかつたが稍々練習の結果直ちに全部記憶する事が出來た。更に又他の物品が同じ方法で彼に示された。

而してキムわ、彼が非常に惹きつけられた一人の立派な老アフガン商人と國內旅行おした。その商人も亦情報局に働く一人であつた。場合によつてキムわ彼に代り秘密に重要使命お果して彼に親切お盡す事が出來た。*6) 又或時にわ土人達がこの商人お殺そうと謀つているのお知つてその生命お救つ

た。熟睡中惡夢に襲われて無意識に歩き廻るように見せかけて、キムわ直ちに商人お殺害せんとしている人々お離れてその友人に告げたのであつた。

かくてキムお機密吏の一員に任命せられ *7) 秘密の印即ち標章と獨特な合言葉によつてその筋の者であることお示す言葉とお授けられたのである。スカウトわ同志間のみ通ずる合印お持つている。

情報局の役員わ印度にわ非常に多數である。そしてお互ひに外觀でわ判別しないので、敵の中にいても互いに認別することが出來るにわ合印お持たねばならないのである。

或時、キムが汽車で旅行している際同じ役員の一人に出合つた。この者わ土人で、あわてふためいて列車に乘り込んで來た。しかも頭や腕に大分負傷していた。彼わ他の旅人に停車場に馬車お驅つて來る途中車から落ちて負傷したのだと說明していた。*8) 然しキムわ、優秀なスカウトの樣にその傷がひどくて車から落ちて受けた擦過傷でわないと認めて、彼の言葉お信じなかつた。その人が頭に繃帶おしていた時、キムわ彼か持つているのと同じ合印お帶びていたのお發見した。それでキムわ自分のお彼に示した。するとその人わそれお見て合言葉お二三會話中に挾んだ。キムも相當の言葉で返事した。そこでその人わキムお一偶に伴つて來て次の樣に說明した。

變　裝

彼が或秘密の事お遂行していた時、政府の敵に發見され、追ひ廻されて殆ど殺されんばかりになつたと話した。敵わ恐らく彼が列車に乘り込んだことお知つて彼の行くことおその仲間に電報で報せるであろう。然し彼わ敵に捕縛せられずに、或警察官に彼の使命お傳え度いのであるが、然し若し既に彼の來る事が敵方に警告されていた時にわいかにしてそれお遂行すべきか分らなかつた。*9) そこでキムわ彼に變裝するよう注意した。

印度でわ多數の乞食が國內お

巡禮している。彼等わ殆ど裸體に近く、灰で體お塗り、顔に一定の記號お彩る。一般人からわ非常に聖なるものと考えられて居り、食物及金錢お與えてくれるのである。そこで、キムわ土人の樽から持つて來た粉と木灰とお混合し、友達お裸にしてそれで體中お塗つてやり、終りに丁度小さな繪具函お持ち合せていたのでその人の額に適當の記號お描いてやつた。更にその傷も粉や灰で、 *10) 一つにわ傷お癒すためと、又一つにわそれお隱すために塗りつけた。頭髪にわブラッシュおかけて全く乞食のようにくしやくしやにし、そして塵埃おかぶせて、當人の母親さえも見分けられないように巧に變裝せしめたやがて間もなく彼等わ大停車場に着いた。そこのプラットフォームにわ報告する筈の警察官がいた。變裝乞食わ彼に近寄ると英語で亂罵された。乞食わ土人語で惡口お返した。その言葉の中に合言葉お含めていた。警察官わ印度語が分らないような恰好わしていたものゝ、よく理解して直ちにその合言葉から乞食が役員であることお知つた。彼等お捕縛するように見せかけて、警察に同行し、そこで靜に語つたのである。彼にわ互いに連絡があることがプラットフォームに居た人々に知られないで、又此の土人乞食わ逃げて來た情報役員であつたと云うことも知られないで、斯くして巧妙に仕事がなし遂げられたのである。

終に、キムわ更に同局の役員の一人と近附きになつた。その人わ教育ある土人であつて印度語で云えば Babu と呼ばれている。 *11) 彼わキムお非常に助けて、印度の北西部境界で敵の間諜として活躍していた二人の士官お捕縛した。

Babu わその士官達にわ、英國が嫌いな地方土人の公爵の支配人であると見せかけていた。そして暫く彼等と一緒に此の公爵の代理として旅行おした。斯うしている內に彼わ士官がその秘密書類お何處に保持しているかお知るようになつた。そこで土人等わ彼等の行李お奪ひ去つて、闇の中に逃げてしまつた。土人に混つて居たキムわ其の荷物お開けて、秘密書類お取り出して本部に屆けた。

*12) キムのこれ等の冒險其の他の所業に就て、一讀する價値わ十分にある。何故ならば、それ等わ何れも、B・Sが十分に訓練され、十分に聰明であるなら自國のためにいかに、價値ある働きおなし得るかお證明するものである。

以上の話によつて我々わ先づ *1 に於てベーデンパウエル卿が指導者に呼

びかけ、最後の *12 に於て指導者に（勿論 *2 及 *4 から *11 までわスカウトにも暗示お與えたことでわあるが）訓練の大切さお告げたものであるあることお知り。*2 わ總ての行爲の淵源である意思の試練であつて、*3 に於てわ指導者と被指導者の意思の強弱に觸れ、*4 でわ注意力及記憶力の重要性お示唆し、*5 でわその練習方法お、*6 でわ察知と氣轉。*7 でわ合印と合言葉。*8 でわ觀察と推理 — 勘の働き。*9 の變裝で奇智の働き。*10 でわ急救法お、*11 でわ役員としての責任感と義務の遂行に勇敢であつたこと等お暗示している。

然もこの話わその年頃 — スカウトの — 少年の最も好む冒險心に適合し被訓練意欲おそゝり、劇に或わゲームに仕組まれる要素お多分に持つ興味深いものであることお指導者わ諒解するであろう。

*5 に於ける注意力、觀察力記憶力の練磨方法がキムスゲームとなつて、初級スカウトの進級課目に盛られている理由も了得されることと思う。

【人殺しお見つけた話】（かゞり火のまどいの話その二記載）

（この記述の冒頭に於てベーデンパウエル卿わ特に「注意 — 次の話の主意わ事實であつて、指導員がB・Sの義務お說明しながら話すにわ好適の一例である」と記している）

昔英國の北部で殘忍なる殺人が行われた。犯人わ主として牧童の斥候（スカウト）に依つて捕縛され、有罪お宣告されて絞殺に處せられた。

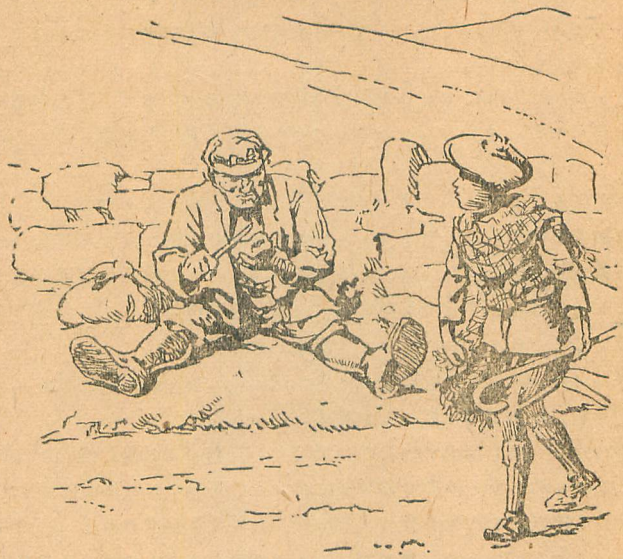
森林生活法 — 少年のロバート・ヒンヅマーシュわ曠野に羊お飼つていたが、やがて家路につき道もない荒涼たる丘お越えて歩いていた時、偶然にも彼わ地上に足お投げ出して何か喰つている一人の浮浪者の前お通つた。

觀察 — 通りすがりにその少年わ彼の樣子に注意した。特に長靴の特殊の釘に注目した。

匿視 — 少年わ足も止めず凝視もしなかつたが、然し、通り縋りの一瞥でこれ等のことゞもお見て取つたのであつた。その男わ少年お注意するに足らない普通の子供だと思つていたので、一寸も氣に留めなかつた。

推斷 — 少年が自分の家、五、六哩と云う地點に差しかゝつた時、大勢の人々が小屋お取圍んでいるのお見た。その小屋に一老婦人が殺されていた。彼女わその小屋に住つて居たのであつた。加害者に就ての噂わ樣々であつ

人殺しを見つけた少年



た。そして嶷疑わその地方お奪掠したり、或わ自分の不正行爲お密告する者お脅迫して彷徨していた三四のジプシイの群に專らかけられているようであつた。

少年わこの話お聞くと同時に、その小屋の小さな庭に特殊な足跡お發見した。靴の鋲跡わ先刻牆原にいた男の長靴に認めたのとしつくり合うので、彼わ自然と次の様な推斷お下した。卽ちさつきの男わこの事件に何等かの關係お有つているだろうと。

義俠——慘殺されたのわ頼る處もない老婆であると云う事實わ、加害者に對してかの少年の義俠的感情おむらむらと喚起した。假令その犯人が何びとであろうとも。

勇氣——自己訓練、敏捷——そこで若し彼が通告すれば犯人の一味徒黨わ又彼お殺すであろうとわ知つていたが、一方に於て彼わ恐怖お投げうち、卽刻警部の處に行き、庭にある足跡とその足跡お印した男お見出した場所等お告げた。

健康と力——牆原にいた惡漢わ犯罪地點から可なり遠方に逃げのびていた

ので——然も誰にも認められず（この場合唯一少年お除くの外）——安心し切つていた。そして少年が犯罪の行われた場所に行き、更に巡査お伴つて、彼のいる處まで引返して來ようなどとわ夢にも考えていなかつたので、特別注意もしていなかつた。

然しこの少年わ強壯で且つ健康な山家育ちであつたので、足わ非常に達者で且つ早かつた。それで人々わ容易にその惡漢お見出し捕縛することが出來た。

その惡漢わウイリー・ウインタアと云つてジプシイであつた。

彼わ裁判の結果有罪と決まり、ニウキヤスルで死刑に處せられた。彼の死體わ殺戮場附近の絞首台に曝しものにされた。これわ當時の習慣であつた。そしてその絞首台わ今日でも現存している。彼の仲間なる二人のジプシイも窃盜罪で捕えられてニウキヤスルで處刑された。

親切——然しその少年わ絞首台に曝されている加害者の屍お見たとき、同胞の死お悲しむ情が胸に溢るゝお覺えた。

人命救助——然し判事わ彼お呼び出して、同胞に對し彼が盡した善行爲お稱讃した——即ち斯くの如き危險性に富める犯人おこの世から除去したと云うことわ、同國人の生命お幾つか救つたことになるのである。

義務——判事わ云つた「君わ君一個人の危險も苦痛も顧ずして義務お遂行した。然しながら巡査お援けて正義お行うことのみが王に對する義務だと考えてわいけない。義務わ自分自身おどんなに犧牲に供しても、假令それが己れの生命お放棄してかゝらねばならぬことであつても、之れお遂行しなければならぬものである」

手本——斯くしてその少年わ、人に教えられないでB・Sとしての義務お總て遂行したのである。

彼わ次の様なことお練習した——

森林生活法
觀察、人に氣付かれずに
推　　斷
義　　俠
義務的觀念
忍　　耐
親　　切

その少年わ自分のした行爲が、後年に至つて諸君が義務お行うことお習う際に、模範として擧げられ様とわ、夢にだに考えなかつたことである。同様に諸君の行爲も後になれば人々に依つて批判され、又手本として擧げられることもあると云うことお忘れてわならない。さればいかなる場合に於ても正しく自己の義務お遂行することお努めなければならない。

以上の話わその含む種々の教育的價値がそれぞれハツキリ示されているから、B・Sに於ける「話」と云うものがどんなふくみお有つているか、どんな話おなすべきか、どんな風話にすべきか、その方向およく示唆している。

少年達わ「話」の興味に惹れて、その話の中に含まれている教育目的の暗示に乘つて、自分もそうあり度いとの念願と、そうすることの出來得るようになり度いとのあこがれから修練に努めるであろう。

「人殺しお見つけた話」の中に含まれた事項中ベーデンパウエル卿がゲーム化した例お、訓練目的事項のゲーム化實例として、次に記載して、指導者の參考に供する。

足跡發見（註—このゲームわ注意力、觀察力、記憶力、推斷力の練磨である）

A班の全員お座らせて足お上げさせる、（註—座して兩足お揃えて或いわ多少開いて眞直ぐに前方に出し、地面につま先きとかゝとお垂直に立てゝもよい）要わ靴裏がハツキリ見えればよいのである。B班のスカウトに約三分間これお研究させる（註—誰れの靴裏わどうなつているか——どの靴裏の格向わ誰れと觀察して記憶する）約三分間の後B班のスカウトお部屋或わ見えない所に去らせる。一方A班の中から一スカウトお選定して適當な地面にその足跡お附けさせる。そして其のスカウトおA班に戻してから、B班のスカウトお一人宛呼んで、その足跡お見させて審判員に小聲で誰のであるかお告げさせる。すんだものわすまないものと離れた所に置く。（註—このゲームわ對班ゲームであるから次にわB班とA班の立場お交代してやる。そして正確な答の出來なかつた者の少ない方が勝ちとする）

盜人足跡看破

知らない人に頼んで、その人の足跡おスカウトに見せないようにしてつけて貰う、その足跡おスカウトわ十分間研究する。

再びその人お八人なり十人なりの人々の中に入れて交る交る歩かせて足跡おつけさす。そして少年達にそれお判定させる。各スカウトわ先に足跡おつけたのわどの人かお審判員に代る代る低聲で報告する——一列縦隊になつていてその番號順で審判員に陳述するのである。正確な答えおしたスカウトが勝つ、若し正しい答おした者が一人以上の場合にわ足跡の圖お記憶に依つて描かしむ。最もよく描いたものが勝つ。

足跡發見の他の興味ある方法として追跡ゲームが出來る。玆に記載したものわ追跡ゲームの例であるが、これに齊しい方法で足跡による追跡ゲームが示される。

追跡ゲーム

野兎お放す——これわ一人の先發スカウトが徒歩でもよければ自轉車でもよい。ポケツトに胡桃のカラ、色紙片、釦など一杯に入れて置き後からそれに依つて追跡の出來るように少しづゝ地面に落して行く、或わ白墨お以て壁とか門柱とか舗道、街燈、木等に班の記號お方々に描きそれに依つて班に追跡させてもよい。班わ後からこのサインおきれいに消してゆく、又他の道標例えば用のない道お示す印おつけ、或地點に手紙お隱しておいて次の曲り角まで方角お知らせる。

以上のやり方おトラッキングアイオンと云うものお靴底につけるか、或わ普通の靴の踵に特に目印しになるように鋲お打ち、それお履いたスカウトお鹿として先發させ、班わこの鹿おその足跡により追跡する。足跡の外にわ前述の追跡ゲームのような手掛りになるものわ殆どない。然も鹿わその長足お利として自由に山野お駈け廻るし、場合によると跳躍して足跡お草原中に絶つこともある。

次にキムの話から出て來たキムスゲームも、野外又わ市街で行きづりに地物や商店の飾窓の中の物等お見させて行うことも、個人ゲームでも對班ゲームにでも出來る。

要わ一つの方法にこだわつていないで、どんどんそれお活用應用し、新鮮なものにしてゆくよう展開、發展させてゆくことである。

【附　錄】

アメリカの班長ハンドブツクから

班制に關してわ、第一章に於いて詳述したが、更にその實際的運用お慮るとき、我國に於ける過去の實情に鑑みて（35-36頁參照）スカウテイングわ、隊長（スカウトマスター）が同情と能力ある指導によつて上級班長（シニアー・パトロール・リーダー）又わ班長（パトロール・リーダー）お指導し、それによつて班長が班員お導く――つまり班長お通じて班員に教育お浸透させると云うことお、よくやり得るかどうかに危惧の念なきお得ない。この法則わ、スカウテイングの原則であつて、如何に班制が立派に出來、進級制度及び技能章制度が行われても、この原則お採らなければ、眞のスカウテイングわ行われない。

この原則の採用わ嘗ての多くの我國の指導者の觀念から云えば著しい不安があるであろう。それわ、それまでに班長（寧ろこの場合班長と云うより少年と云う方が適切であろう）お信頼し得るか否かにあろう。スカウテイングわ、少年お信賴し、少年の手によつて少年おB・S教育の抱く訓育目的え導くものであるから、彼に對する信賴が出來なければ、眞のスカウテイングわ行われない。然も再建B・Sに於いてわ、この原則の實施お至上要請としている。

因て玆にアメリカの**班長ハンドブツク**より「班長及びその任務」の一章の飜譯お、本書第一章で述べた班長教育の意義と、その重要さお再確認する意味で轉載して置く。

次に班名の名付け方に付いても、我國のそれわ、例えば動物名お用いる場合、唯單に「牛班」とか「鷹班」とか、その固有名詞一色に、然も劃一的に使われているが、これももつと活動性お帶びた形容詞お付けたもの即ち「吠える狐」とか「とぶかもしか」などゝする方が深味があり、彼等の心理に一

層適合するから、其の他の名付け方と共に前記ハンドブックから署名の名付け方の項おも飜譯して附隨させた。

この二つの事項わ、スカウトマスターが、シニアー・パトロール・リーダーなり、パトロール・リーダーに對して前者わその心構えお中心に、後者わその選び方につき、それぞれ親切に話しかけているもので、問題の重要性、取り扱い方、指導振りなど何れもよくその消息がうかゞわれて、我が親愛なる指導者諸氏によき參考となるものである。

尙このアメリカの班長ハンドブック全譯が、近い將來に於て本聯盟（日本に於ける飜譯權所有者）から發行される筈である。

【班長及び其の任務】

貴君わ班長に選ばれた。

お芽出度う！

貴君及び君の班員の前途にわすばらしい數々の時が待ちかまえている。卽ち數々の面白さ、冒險、仕事、そして、世界中で最も貴いもの一つである處の「友情」です。立派な班わよき同志のグループです。

「すべてわ一人のために、一人わすべてのために」——どんな場合に直面しても互いに肩お列べている眞實の單位です。

貴君わ班長であることによつて出來得る限りの樂しみの滿足お得なさい。然もこれ等一つのものわ手輕に求め得られるものです。だが忘れてならぬことわ——よき班長の一瞬も忘れてならぬことわ——それだけに止まることでわ決してないと云うことです。

貴君の班員のすべてわ如何なる性格のものに實現されるにしても、班の形成にわ決定的の要素になるのです。その間に於て、同時に彼自身わより眞實なスカウトに成長するが、然し最上の責任又わ信賴わ貴君のものです。貴君の指導、自分及び班に對する貴君の理想、スカウトとしての貴君の態度及び模範、グループに對する貴君の同情と理解等わ——個人的又わ全體としてわ

他の班員に取つても非常な相違お来たすのです。

どんな班でもよきリーダーの下でわ、正しい班になり得ます。ですから班長さん！　最初から貴君の任務の眞髄に眞正面からぶつかることが肝要です。

どおゆうものが良き班長に必要か？

まあその一つわよきリーダーわ自分の班お非常に信じていることです。彼わ前以て次のことお自分の心眼で見るだけの熱と信頼お持つています。即ち、スカウトの宣誓及び法規に従つていて全般的に優れているスカウトによつて成立つている隊中の最も優秀な班であり、且つ、斷えず進歩する班である。と云うことです。

彼わこの理想とその可能性お自分の心と胸に非常に強力に植付けているためそのことが彼の凡ての言葉、行動等の背後にあり、且つ、それが直接の原動力になつています。そして彼が最初に知ることわ他の者も彼と全く同様に思うようになると云うことです。

熱と云うものわ傳染的ですから貴君が、自分のスカウトより最良の力お期待しているならば、これお實現するにわ、最も優れた方法でする。

或る時、或る隊長が一人のスカウトに向つて「何故君及び他の班員が、班長に對して、斯くも熱心に又忠實に彼の依頼又わ欲することお無條件に従うのか」と訊ねた。するとそのスカウトわ、一寸と考え込んだ後「私にわ、はつきりそれわ、判りません。併し多分それわ、恐らく我々自身も彼のようになり度いと思うからでせう」と答えた。

この答えが、要するに問題の鍵であると同時に、次の點に導くのです。即ち「正しいリーダーわ又正しいスカウトである」と云うことです。

セカンド・クラスかファスト・クラスえの進級に關して何等關心おいだかないような班長わ、恐らく停滯若しくわ逆戻りするような班お持つでせう。

班わ丁度列車のようなものです。エンヂンが運轉されている間わ、列車全

體わ進行するが、若し休止すると列車全體も止まるでせう。萬一脫線すれば列車全體わ破壞されるでせう。

貴君わ班と云う列車の機關車です。貴君が先きえ進めば、班員も同樣に進むでせう。貴君が停止すれば同樣に班員も止まるでせう。萬一貴君が不精、不注意、無關心或わ他の理由で脫線すれば貴君わ班の破滅に遭遇するでせう。

スカウトクラフトのリーダーたれ

大體貴君わ「スカウト・テスト」に付いてわ、他の班員よりも常に少し先え進むように欲するでせう。リーダーに取つてわ「ゴー・オン」よりも「カム・オン」と云う方がより容易であり、且つ、效果的でせう。貴君が少し進んでいれば、他の者も貴君に追いつくことお欲するでせう。貴君がグズグズすれば、恐らく他の者も同樣グズグズするでせう。貴君わ、前の例のように班員が同じような人になり度いと欲しているように班長にもなり度いと欲していることでせう。若し貴君自身がスカウトの進步及び任務の全般に亘つて、元氣と、進取と、忍耐と抱負とお示すことが出來ればそれわ容易なことです。

最初から自らイーグル階級お得ようと決心した班長わ、頂上まで彼と步調お合わせんことお欲する班お見出すでせう。こゝに於ても同樣に熱わ傳染的のものであり、一人といえども登り路より殘されることお欲しないでせう。

スカウト精神のリーダーたれ

不機嫌なリーダーわ、不機嫌な班お受持ち、又わ恐らくそうなるでせう。然るに例えば任務が困難でも喜んで、又わ熱お持つてそれお果す朗かなリーダーわ、多分、隊長がどんな時にでも賴ることの出來る班お持つことでせう。そしてその班お持つことわ、リーダーとしての誇りでもあり且つ指導するに滿足お得るでせう。

貴君が自分の力の及ぶ限りスカウト・ロー（おきて）に従わんと眞實な努力お貴君の班に示し、又貴君がよき行いお本日の義務として眞實に取扱い、且つ「肉體的にわ强健であり、精神的にわ油斷せず、又道德的にわ正しく」自分自身で從い、又それお守ることわ同樣な行いおすることわ、やはり仕甲斐のあることであると云う事實お他の者に暗示する結果になる。それが貴君に附與された信賴の大部分の一つです。貴君がスカウテイング指導おしようとするなら先づ自分自身が徹頭徹尾スカウトの理想に從うことお知らなければ、恐らく不可能です。貴君が眞實なリーダーであれば班員わ仕事だけでなくスカウトの內部精神に於いてさえも貴君の指導お仰ぐでせう。

班長はよき理解者である

しばしば我々わ少年が年長者のことお「あの人わ理解力がない」と云うのお聞く。實際に班長としての貴君の重要、且つ、實際的任務わ「理解」することです。要するに貴君の班員達の精神と心に出來る限り接近し、彼等が貴君の同情お感じ得るように、そして彼等が全信賴お貴君に與えるようにしなければならぬ。勿論右のことわ早急に實現されるものでわない。これわ時間と忍耐と熱心な思考の問題です。又しばし沈默お待つことお意味することです。貴君も自分の體驗から承知のように、もし第三者が貴君の用意が出來ない前に貴君の信賴お强要しようとすれば、貴君わ蛤のように固くとじ込んでしまつて再び開くまでわ多大の時間お要することでせう。時間さえ到來すれば、若し貴君に眞のリーダーとして十二分の資格があつて必要に應じ援助お與えるために待機していることお、言葉以上に貴君の樣子と態度お以つて各班員に理解されるように力め、又貴君の忠實さと同情心お彼等に感じられるようにすれば、貴君わやがて各々の自發的信賴おかちえるでせう。その時にわ、貴君わ幸福になり得るでせう。何故かと云えば貴君わ自ら眞のリーダーであり、又わ眞の友達であることお如實に示したことになるからです。

彼の班員お理解する班長の眞實に對する試金石の一つわ、言はず彼等の心

持ちの内部に入り込む彼の力であり、特殊の場合に或る少年がどう感じ得るかばかりでなく、何故そう感じ得るかお知り、又、如何に彼わ行動するかばかりでなく、何故彼わそのように、行わなければならぬかお、注目することです。

この理解力に關する問題に付いてわ、貴君わもし各少年の家庭お訪問し、出來るだけ彼等の背景兩親、學校、仕事、習慣又わ趣味抱負等につき知るだけの手數お取るならば非常に助かることに氣が付くでせう。

すべてこれわ多大な時間と如才なさと、努力とお要するが、併しそれわ班長としての任務の一部です。眞に理解し得る班長のみが彼の班員お指導し得るのです。これまでわこれでいゝのです。併し簡單に考慮すべき他の點が少し殘つています。

活 潑 な 班

さきに班お汽車に例えたが、どこえも行かず又 的地も、時間表もない汽車わ全く無用なものであると同樣班もそうです。活潑な班、卽ち爲し得るものが多數あり然もそれお果す豫定表、一定の目標と目的お持つ班のみが眞に生きた班です。

そしてこれ等の點に付いて班が眞に生々としていることお見定めることわ班長の任務であり、然もそれわ、大きな仕事であるのみならず激勵的であり、又興味のあるものです。彼わミーテイングとプログラムお計畫し「グッド・タン」と諸案お調べ少年達がスカウテイングに興味お持ち、又進歩する樣なあらゆる方法と手段お考案する。それわ要するに確固たるものお實現し、又絕えずその實現に從事して多少たりとも重要な存在によるためです。彼の指導に委ねられた班の組織者にわ、幹部として及ぶ限り責任お負わなければならない。何故なら誰々——數人の誰々——が、彼がその任務お滿足に果し得ることお信じているからです。

指導お分擔せよ

勿論すべてこれ等に付いて班長わ、すべてのものお計畫する。これわ、他の者に構わずすべて彼の欲するまゝ果すように命令する處の單なる親分お意味するものでわ斷じてない。班長としての貴君の責任の一つわ班員の指導精神お訓練し助長することです。卽ち彼等自身でやることによつて物ごとお習い、又物ごとお計畫してそれお最後まで實行し得るよう手助けして、すべて試みられることに參加するだけでなく、その成功に熱心であるように仕向けなければならぬ。それわ、要するに貴君自身又わ貴君のアシスタントが勝手に決めたからでわなく、それわ彼自身がその實行お欲すると同時にそれおすることによつて樂しむからです。記憶しなければならないことわ「サアやろう」であつて、決して「サアやれ」であつてわならないことです。

班わ全體の一部

班又わ班の仕事に夢中になつて、時々、班わ全體としての隊に對して一定の責任と任務があることお忘れる班長がいます。

指導わ決して一方的のものでわない。各方面に直面し、又それ等の線に於いて活動すべきものです。

もし貴君が貴君の班に對して完全な自信とそしてその成功の大志お持つているならば、貴君の班が隊の活動、作業、遊技等全般に渡つて積極的且つ活潑に參加することに大きな誇りお持つでせう。貴君わ貴君の班員がことごとく隊の會合毎に出席するだけでなく、隊の行つているすべての行事に自ら忠實且つ熱心であり、貴君の隊長又わ他の班と全面的に協力し、そして最後まで奉仕、親交、協同お進んで與えることお欲するでせう。

班お代表する

貴君わ隊の班長會議に於いて班お代表し、そしてその會議に對して班の全

責任お負うのです。この會議に於いて貴君の隊長及び他の班長と共に全體としての隊の活動計畫お立て、隊の諸問題お考えるのです。こゝで貴君わ班の仕事お實行するについて適切な指導と援助お受け、指導者會議の精神と隊に對する隊長の理想や希望等お、積極的且つ忠實な單位である班に傳えるであろう。

實際問題

然し班長としての貴君の特殊且つ個人的な任務にもどりませう。貴君の前に横たわつている任務の大きさに驚いてわいけない。それわ大きな任務であることに間違いわない。併しそれわもし適切な方法お取つてそれお行いながら學べば貴君わそれに耐え得ることが出來るのです。だが忘れてならないことお、例え從うことが不可能であることお見出しても、又如何なる場合でも班お從わせることが出來なくても貴君わ絶えず理想お保持しなければならないことです。「失敗でわなく低い目的お最もさけなければならない」「若し貴君がやれると思えばやれるのです」

忘れてならない重要なことわ、班員お愉快にし、又班生活に滿足するようにするのが貴君の任務です。この樂しさこそ他の大部分のものお伴うのです。「幸福な市民わ善良な市民です」と云われています。同樣に又愉快なスカウトわ立派なスカウトです。ですから貴君自身と他の者のために樂しみお第一の目的としなければならない。卽ち利己心に基いた樂しさでわなく——これわ眞實の樂しさでわない——奉仕と友愛に基いた眞の樂しさでなければなりません。

貴君わ一時的に丈夫で、機敏でそして感じやすい少年達のリーダーです。彼等お樂しい興味お持つた熱心なスカウトにし、そして彼等がスカウテイングの大理想に出來る限り從わせることが貴君の責任です。

この任務に對し全力おそゝぐと云うことわ、信賴と責任に十二分償する仕事です。

貴君と同様な少年で眞の班長であるペンシルバニア州フイラデルフイア市のジョン・ゴルース・インネスの書いた班長の信條お此處に傳えませう。

班長の信條

私わ私の班に旺盛な精神お啓發致します

「私わ絕えずにこにこする。私わ全班員のよき友になり、何時でも彼等に奉仕するように心がける。彼等わ私が何時でも新しい歌、新鮮な趣向、或わ藝お期待し得るようにして我々わ眞に四十人の盜賊のように親密になる」

私わ努めて進級するようにする

「私わ徐々にテンダーフツトからセカンド・クラス。フアスト・クラスそして全メリツト・バツヂお經てイーグル・ランクに進級する。それわ他の班員が同樣な行動に出る道標或わ靈感になるからである」

私わ一日一善主義お勵行致します

「私わ一日一善主義お、私の一番よいネクタイの樣に特別の場合だけに使用すると云うことわ絕對にしない。同樣に私わ一善の後わ自動的に見付けることおやめたり、又行いお中止するようなことわしない。私が一日一善お實行したから最早祖母の眼鏡お見附け出して上げたり、或わ母の代りに冷藏庫に氷お入れて上げたりすることおしなくてもよいと云うことにわならない」

私わスカウトの誓約と法則に從う

「私わ忠實でなければならないことお常に記憶している。そして例えビルがどんなに惡戲お私にしても彼お見損うようなことわせぬ。私わ例えそれが苦痛お與えても、又わ反抗したり、皮肉お云つたり、或わ單に不平お云つたりすることが快いものであつても、絕えず朗にする。時々時間おさいて、國に對する私の義務わ一體何お意味しているのだろうか（それわ場合によつてわ不注意にこぼされた屑おかたずけることかも知れない——誰れがそれお知つているだろうか？）又わ他の人々や、神に對する私の義務わ何んであるか（私自身のために敎會え行くことであろうか？）等お私わ考えて見る。更に敬神に續いてくるものわ、私達の舊友である淸潔である。それわスカウトの法則の一部であることお記憶して常に石鹼とよき友となるようにする。手や首にも、制服と同樣に効果のあることお忘れずにその積りでやる。

代りのテニスのラケツトがどんなに欲しくて、然も銀行にそれお買う以上の貯金があつても、私わ我慢して節約の途おとる。こんなとき私わむしろ、その貯金お更に殖して口笛お吹きながら我が道お踏んでゆく。

私わ常に信頼されるように努力する。そして私の隊長わ會合やハイキングの場合に私が時間お守ることお期待出來る」

私わ班お導く

「私が班長でありそして班員のすること、又彼等の振舞いに對してわ、全部私が責任お負わなければならぬことお記憶している。そして彼等が私の指導お確實に尊重するように手段お講じる。班のミーテイングや責任お持たせられる部分の隊のミーテイングに對してわ、私わ入念に計畫お立てる。すべての班の計畫や餘興に付てわ、私わ積極的に興味お持ち。そして班の仕事全部に對し公平な負擔お持つ。私わ私の班の次長に對してわ、公平お期するように努力し、そして、私の出來る限り班の取扱い方お教育する。班全員の能力お常に注意し、そして隊及び班の仕事に彼等が各々寄與するようしばしば要求する」

私わ私の仕事お計畫する

「有力なる管理者又わ指導者になる方法わ唯一つしかないことお私わ知つている。それわ先づ何おなしとげつつあるかお知り、それおどういうふうにしたいかと云うことである。隊の次回の會合でやる歌、劇、ゲームに付いてトムとジョンにやつて貰うことや、そして一級のテストお全部完了するにわ、どうしてフランクが急救法おパスしなければならないかの證明等の用意が確實に出來る迄私わ班の會合お開かない」

私わ寛大であつて功お歸すべき處にわそれお與えるよう努力する

「激勵の言葉以外に少年お元氣づけるものわないことお私わよく知つている。だからよく仕事おやつたものにわ、喝采お贈る。仕事に對し自分の分擔以上にやつたものお、常に注意深くさがし求めてその精神お如何に感謝しているかお傳えるように努力する。彼等の仕事に對してわ、私わその功お自分のものとわしない。エードが特に立派な地圖お作つた時にわ、隊の全員がそれお見て彼おほめてやるような機會お出來るだけつくる」

若し上記の、インネス班長の信條が、貴君のものであれば、非常に結構です。

さあ!! やりませう

一、よき班長わ常に熱心であり、班や少年に對してわ無限の信頼お持つている。

一、彼わ常に自らスカウトの進級の道お前進し、他の班員も同歩調、或わ力の及ぶ限り續いて來るよう激勵する。

一、彼わスカウテイングの技術のみでわなく精神に於いても、他お導き、そして誠實によき模範お示すよう努力する。

一、彼わ極力班員お理解し、出來る限りの援助と同情お與える。何故かと云えば彼わ心の底から全員お眞に思つているからである。

【班名の名付け方】

しばしば第一に少年達の會合で決められるものわ班の名稱です。少年のハンドブツクお求め、班動物のリストお作りその中から一つ選ぶ。それでおわる。

このような方法で名稱お選んだ場合にわ、班にわどう云う意義があるだるうか？　全くなにもない。

名前わ非常に重要なものです。赤坊が洗禮お受ける場合、その名前に付て全家族が數週間に亘つて、それお話題の中心にして議論されずに行われたと云うことわ滅多にない。全家族が色々な名前に付いてその是非や理由お論じた結果遂に何等辯護する力のない子供の名前が決まるのです。それにしても赤坊が成長してから、その名前が彼の德性にぴつたり合つていないことが往往にして見出される。だから班の名稱お選定する場合、將來班に取つて何等かの意味があり、又班員以外のものわ知らない理由のある名前お、少し時間おとつて考えてわどうでせうか？

班員達によい名前お見出すように注意すれば、何時かわどうにかして見出し得ることわ確實である。

どうして或る班が名前お得たか

我々が知つている或る班わ名前お見出そうと空しく努力していたが、その機會が彼等の最初の大ハイクの時に來た。

彼等が丁度林の中お通つている時　一人が突然古い葉が散らばつている地

點えさしかゝつた。そこにわ多數の足跡が大喧嘩の後お物語り、そして新しい血の跡わ或る悲話お暗示していた。その眞相おつきとめようと全員わ直ぐそこに集つた。そして灌木の枝や地上に落ちていた毛から狐と麝香鼠の間の衝突であつたことが解つた。入念の調査の結果　矮林の間お血がしたゝつていて、餌食お引きずつた狐の後お追うことが出來るのお發見した。幸に風の利お得て追跡お開始した。しばらく歩行お續けて突然停止した。遙かに向うから、恰も夢幻の世界からの不思議な音の如く狐の鋭い吠聲が聞えて來た。彼等も尚歩行お續けて細心の注意の結果、狐の洞窟の近くまで寄ることが出來た。そして老狐が亂入者の音に氣お附けながら見張つている間に、仔狐達が餌お食べている樣子お見ることが出來た。

この出來ごとが、彼の班に、班の名稱——即ち「吠える狐」お與えることになつた。

この班わ、この班名が出る度毎に、班全員が矮林の間で最初の狐お追跡したあの日のことお、思い出すのわ間違いないでせう。

もう一つの班の場合

もう一つの班わ面白い方法でその名稱お得た。或る時　開拓の餘興として橋お廣い溝の上に築いていた。それわ一日がゝりの作業であり、そして橋わ非常によく出來たように見えた。そこでその班長わ、橋の強さおテストすることに決め、班の全員に橋の上に集まることお命じた。そし萬事良好であると思われていたとたんに音がして七名のスカウトと共に橋わ落ちてしまつた。幸い溝わ淺くて少年達わ唯膝小僧まで水に浸されたのみであつた。然し同時に班わ「ぬれたモカシン」と命名された。その名稱わ外部の者にわ何等深い意味お與えないだろうが、併し內部の少年達にわ無限の意味お持つことになる。

若し適當の期間中に何等價値ある出來ごとが起らないとすれば、貴君わ一つ名前お發明する必要にせまられる。その時にわ注意深く考慮しなければなりません。

色彩の名前

先づ第一に浮ぶ考えわ班の少年達が好む色彩お選ぶことでせう。それお班の班旗の色と同時に班名にも使用する「グリーン班」「ブルー班」「グレー班」わどうでせう。響きわ悪くないでせう。

動物の名前

又貴君わ班名として動物の名前お好むでせう。それについてわ次の點お考えなければならない。卽ち我々が住んでいる地域、又わ班として育成したい長所お、どの動物が一番それお代表しているかお考えなければならない。ロッキー山脈に住んでいれば自然と貴君わ熊お選ぶでせう。又例え動物園以外にわ出現しないとしても、その力（或わ甘黨 — 熊わ甘いものが好き — であるのために）それお選ぶかもしれない。フロリダ州に住んでいれば鶴又わペリカン鳥　メイン州であれば鹿又わ鹿お自然と選ぶでせう。

よく考えて見れば例えば河馬や犀の名前お班につけることわ決つて不適當であることが見出される。それわ貴君達の住んでいる所にわいないから、又その意義についてわマア……恐らくカンガルー、レウグ、象も同樣に適しないかも知れない。

動物の名前お班につける場合、ハンドブツクに示されているものわ、たゞ例に過ぎないことお考慮しなければならない。班としてわ適當な名前であれば何にお選んでもよいのです。使い古された「ビーバー班」「アオル班」「ウルフ班」と云う名稱に執着する必要わないでせう。個人的要素お加味して「いそしむビーバー」「白いアオル」「周到なウルフ」と呼んでわどうでせうか。或わ頭に浮んで來たその他の適切なる形容詞お使つてもどうでせう。特色のある名前、班の特長お表わす名前でなければならない。次に少し例お上げませう。

「とぶかもしか」「眼の見えるこうもり」「さまよえる野牛」「翼お張る鷲」「矢の如き鷹」「飛散する馬」「速いカワウソ」「靜かな豹」

「眼の見えるこうもり」班わ暗黑でも小徑お容易に見付ける能力「さまよえ

る野牛」班わ放浪癖に富んで居り「速いカワウソ」班わ水泳や水難救助の達者なものばかり「靜かなる豹」班わ忍び寄り術にたけている者ばかりいることなどお、外部の人達が期待出來るようにしなければならない。班の名稱として動物や鳥の名前お付けることわ適切で、はつきりした呼名お示される利點がある。

木の名前

土地の樹木も班の名稱お暗示し得る。「松木班」わ有名であり、そして「エッカ班」「セコヤ班」「ヘンムロック班」「ドッグ・ウッド班」等わ皆よくきこえる。そのリストお增すのわ困難でわない。「樺班」「ひまらや杉班」「栗の木班」「かしわ班」等々。

星の名前

或わ又星座や星や惑星の名稱の方が心お惹くかも知れない。

「アルゴール班」「コロナ班」「オライオン班」「ドラゴン班」等々。

種族又わ歷史の名

今迄述べた名前わ皆自然に關係したものであるが、其の他の方面からも班名お見出すことが出來る。民族又わ歷史からも名前の暗示お受けることが出來る。例えば「海賊」「バイキンス」「開拓者」わどうでせう。又わインデアンの種族名お使つてわどうでせう。「アパーチー」「ブラックフイート」「チユエーンス」「コマンチス」等々。

人の名前の使用

班の名前の選定について、も一つ非常によい方法わ 最も尊敬している人々の名前お選ぶことです。それわ過去の偉人英雄或わ現存の人かもしれない。例えば「ジエームス・イ・ウエスト班」のように班と云う言葉に關聯して使用してもよい。或わ「自分の（オーン）」お「自分の少年」「自分の班」と云う意味で「チーフ・ウエスト・オーン」のようにコンビネーションに使用してもよい。ここに少し例お上げて置く。

「B・P・オーン」「ダン・ビアード班」「デニアル・ブーン班」「コロンブ

ス班」「エヂソン班」「リンカン班」「ルーズベルト班」「ワシントン班」

貴君自身でもこのリストの名前お數百倍增すことが出來ます。

秘密の名前

最後の着想として貴君の班のために、秘密の名前お考えて見ませう。秘密と云うことわすべての少年にとつて非常な魅力があり、貴君の班お何かの不可思議な要素でつゝむことが出來れば結構です。貴君の班が、その班員のみが知つている獨特の隱くされている名前お付けることが出來るでせう。若し出來ればこゝに一つの暗示がある。

「STICK TO IT」や「DO IT NOW」或わ「HIT THE LINE」のような標語お選び、その頭字だけ取つて班の名前にするのである。「S・T・I班」「D・I・N班」「H・T・L班」の如き名前わ班員外にだれが見抜き得るでせう。頭字の名前お作るにわ、何に〻標語だけに限定ししなくてもよいのです。班員達に何にかの意味さえあればどんな言葉のコンビネーションお使用してもよい。前の場合にわ我々わ班名のグループの例お擧げることが出來たが、今度わ貴君自身の想像と進取性に待たなければならない。勿論それわ如何なる場合にも必要ですが、班名の選定わ非常に個人的の事柄です。これお以て貴君の班の傳統が始まるのです。

今迄述べて來たことが如何に班名が重要であるかお、認識させ、そして眞實の名前が班にとつて如何に大事であるかお悟らせたことも期待している。これが重要な細目の一つであり、また他にも澤山あります。

（當項元ハワイのB・S隊長倉下正氏の飜譯による）

無斷轉載複製を禁ず

著作権所有

昭和24年4月30日 印刷
昭和24年5月10日 發行

スカウテイングの基本的解説

【定價 120圓】

東京都中央區京橋2の2(千代田ビル内)
編著者 財團法人 ボーイスカウト日本聯盟
發行者 代表者 關 忠志
東京都中央區西八丁堀4の4
印刷者 白橋龍夫
東京都中央區西八丁堀4 4
印刷所 財團法人 ボーイスカウト日本聯盟印刷部
發行所 財團法人 ボーイスカウト日本聯盟出版部